大正十二年九月十四日 第三種郵便物認可

新京日日新聞
朝刊　本紙二十頁
本紙定價 一部五錢 一ヶ月壹圓 郵税一ヶ月拾五錢
廣告料金 普通一行 壹圓五拾錢 特別一行 貳圓五拾錢
發行所 新京永樂町四ノ一 新京日日新聞社
電話 編輯局専用(3)三二〇五 營業局専用(3)三三一〇
發行人 [illegible]
編輯人 [illegible]
印刷人 水越内之介

年頭の辭

非常時局下、全國民一致緊張のうちにわれ〳〵は昭和十三年を迎へる、一元復始、萬象更新のこの朝、新興躍進の滿洲國に在るわれ〳〵は、紫氣東方より來るを感じ遙かに奉拜してわが皇室の彌榮えますことを慶祝するのである

滿洲國また愈よ飛躍の時期を進むことを知り、これに相協力すべき同胞の任も益々重いことを思はざるを得ない

視野をひろげ世界の情勢を見れば、最近の國際關係は更に一段と緊迫化してゐるものがある、暴支膺懲の聖戰は始まつて既に半歲、わが御稜威と陸海將士の忠勇によつて戰果大いに揚つてゐるのであるが、その全局の收束を見るのはなほ遙か將來に屬するであらう、既にもはや平和と明朗は大陸の廣大な範域に立ちかへつて居ることは支那多數の民衆とゝもに欣快とするところであるが、更に一段とこの清新朗色が擴大されて行くことを望まなければならぬ

國際政局の緊迫のうちにも日、滿、獨、伊而してスペインの國民戰線を包含する一大防共戰線が確立され、今後の世界動向のなかに重要な位置を占めやうとしてゐることはわれらのこの際特に指摘するに値ひする事實である、この戰線に連なる諸國が何れも現狀にあまんぜず一層の飛躍を期してゐる國々である事情はこれら諸國の共同連帶感に更に力强さを加へるものである

今後の實際の世界の動きに、われ〳〵はこの國際的協力の成果を見ることが出來るであらう

大陸の南に北に勇戰力鬪を續けつゝある將士に對して、われ〳〵は心からの新春の歡呼をおくり、そして銃後の任に愈よ砥勵せんことをこの日に深く期するものである

皇紀二千五百九十八年

彌々御榮えもめでたく 戰國の春迎へさせらる

事變下のわが皇室の御近狀

皇國戰捷の春昭和十三年─硝煙の北支、江南の野に遍く萬歲聲裡に、一億赤子が敬慕し奉るわが皇室は、彌々御榮えめでたく、戰國の春を迎へさせられたのである

畏くも天皇陛下には寶算御三十八、皇后陛下には御年三十六、皇太后陛下には早くも御年五十五、日嗣の皇子、皇太子殿下には早くも御六つ、第二皇子義宮樣の御四つと共に、力強き皇國發展の姿を御象徴するかの如き御繁榮振りと申しあぐべきである、照宮樣には目下女子學習院中期二年御在學中で御十四歲、孝宮樣には前期二年で御十歲、順宮樣には同一年にて御八歲にならせられた、戰勝の報わが全版圖にどよめく中に、常盤木のみどりいと濃やかなるあたり大内山の御榮えこそ、赤子にとりて換へ難き歡喜であらう

□

國を擧げての今次の支那事變中、わが皇室の御近狀について承るに、おそれ多くもその御有樣、御日常は、一般市民、一般國民の生活そのまゝに拜されるこそ畏き極みと申しあぐべきであらう

天皇陛下には御軍務、御政務は殊のほか御繁多を來させられて、昨年七月初めの蘆溝橋に端を開かれてよりといふもの、日夜の御精勵拜するだに恐懼に堪へない程にて、百武侍從長、宇佐美侍從武官長、湯淺内府、松平宮相らの側近者は、ひとしく玉體に御障りなきやうにと、御祈念申しあげてゐる、そして御多端にわたらせらる天皇陛下の御身廻りの御世話を親しく遊ばされる國母、皇后陛下にもまた、來る日、來る日を、北支に、中支に、護國の聖戰に從ふ將士の上を思召され、暑さにつけ、寒さにつけての御慈愛籠る御言葉や賜品にて御慰問遊ばされ、濕き數々の思召しを配らせらるのである、昨春早々廣田内閣の瓦解、宇垣内閣の流產、またも政變によつて近衞内閣の誕生を見るに至るまで、時局の重大を御軫念遊ばされた天皇陛下の御胸中を拜して、側近者はたゞ〳〵恐懼に堪へなかつたのである、深夜湯淺内府を召されて、政情について御下問を賜り、御心のいつか安んぜらることもなかつたと拜しては、赤子たる者まことに感泣に堪へない次第である

天皇陛下の御日常は申しあぐるまでもなく各種の行事や儀式等の典式の外に、極めて多くの御豫定が、二週間または三週間前より御餘暇ないまでに定めさせられてゐるといふ御窮屈さである、昨夏の事變以來といふもの、特にこの御事がはげしく、毎日の如く遊ばされてゐたゴルフ、テニスなどの、輕き御運動は勿論御愛好の御乘馬さへも、御寸暇なきためにブッツリと御廢止、清水澄博士やその他の學者から御聽取の憲法、行政學、皇室令などの御學問もまた御中止の御有樣と拜し奉るのである、軍人、實業家、教育家、政治家等外國視察、見學より歸朝すると、召されてはその觀察談など耳傾けさせられて御聽取になつた木曜の宮中お茶の會も、その御事絶えて久しきにわたらせらるといふ御事情である、近衞首相、杉山、米内陸海兩大臣、閑院參謀總長宮、伏見軍令部總長宮兩殿下の參内奏上は連日相次ぎ、陛下には一々奏上を具さに御聽取遊ばされ、その他御政務をもゆるがせにせさせ給はず、大御心を國利民福の上に常に垂れさせてゐるのであ、毎日早朝より、御軍服を召されて表御座所に出御、こゝにて陸海軍大臣、參謀總長宮、軍令部總長宮兩殿下の各統帥事項奏上の際は側近の侍從武官に支那の地圖をとり寄せさせ給ひ、御机上大地圖を按せられつゝ親しく陸海空軍の御統裁に當らせられるといふ、從つて、連日連夜に亙るかくの如き御精勵のため御休息の御時間とてはなく、毎週北支、中支に活躍する忠勇なる皇軍將士の肉彈戰を畏くもニュース映畫によつて御偲び遊ばされ將兵の勞を多とせられてゐると承る

□

昨秋九月第七十二議會開院式には、貴衆兩院議員に告ぐとて畏くもわが國が中華民國と相協力して東亞の安定を確保し、共榮の實を擧ぐるは夙夜軫念措かざるところであるが中華民國が帝國の眞意を解せず濫に事を構へ遂に今次の事變を見たのは遺憾に堪へないとの御異例なる勅語を賜り、この事變に對する帝國の態度を中外に御闡明遊ばされたのであつた、續いて昨秋十一月十二日に北支將兵に對し、同月二十日には上海方面陸海軍將兵に對し夫々東洋長久の平和確立は前程なほ遼遠なる旨と、將兵の皇威を中外に宣揚したその忠烈を嘉賞し給ひ、戰傷死者を深く哀悼せらるの勅語をも賜つた、在支の將兵この有難くも尊き勅語を奉戴し、いづれも聖恩の優渥に感泣したことであつた、このうちにも陛下には皇祖皇宗の祭祀は怠り給はず、常に御親祭御親拜遊ばされ、昨秋の神嘗祭當日の如きは全國十一萬の府縣社、郷社、村社に臨時中祭を行はせしめられ、東亞の安寧な御祈念遊ばさるため御親らもまた祖宗の神前に支那事變の經過を御奉告遊ばされたのであつた

□

皇后陛下は、征ける將士の遺家族の上に遠く思ひを寄せ給ひ、御歌にて

なぐさめむことの葉もがなたゝかひのにはをしのびてすぐすやからを

と御優しき御言葉を賜つて御慰問、銃後のそれらの家族に對しては、慰める言葉もないと御同情遊ばされたのである

また今次の尊き戰死、戰病死の將兵、軍屬殉職の關東局警察官等に對しては

御歌

やすらかにねむれとぞおもふ君のためいのちさゝげしますらをのとも

と殉忠死の冥福を祈らせらる思召しの色紙に一々御紋菓を添へ給うて下賜あらせられたのであつた

事變以來、皇后陛下には高松宮妃殿下、三笠宮殿下をはじめ奉り、皇族王族各妃殿下姫宮殿下を御督勵、聖上の御世話、御幼少の順宮、義宮兩殿下の御養育と共に、連日御内儀の御一室にて、御手づから繃帶を卷かせられ、今日までに十數次にわたつて陸海軍傷病兵に夫々傳達せられたのであつた、殊に感激に堪へなかつたのは、寺内最高指揮官長谷川第三艦隊司令長官に對し、御手編みの襟卷を下賜遊ばされたことであつた、寺内大將は、令旨を傳達し「將兵一同に何か物を贈りたきも數多きことなればそれも叶はず、代表としてこの品を軍司令官に與ふ」旨の御優しき御言葉を傳へたところ、將兵はいづれも御心の程に感泣したとのことである

また白衣の凱旋をなした後送の傷病兵を親しく病床に見舞はせらるため牛込の陸軍第一病院、横須賀の海軍病院に御みづから行啓遊ばされ御いたはりになつたのである、昨夏愛國婦人會長本野久子刀自が宮城に參内竹屋女官長を通じて、皇后陛下の御母校、女子學習院の常盤會のこのたびの事變に對する事業について言上申しあげたところ、繃帶卷きの御最中であらせられた皇后陛下には參内の趣を聽し召されて、拜謁賜る御沙汰あり、國内における銃後の活動狀況を具さに御聽取遊ばされ「この老刀自はいたく面目をほどこして退下したといふ、「繃帶が早く要らなくなるやうに、病氣も治り、事變を治るやうに―」とのその砌りの御言葉は今もなほ老刀自の耳底に殘つてゐて想ひ起すごとに目がしらがうるむ思ひだと近親者に語つてゐたといふ、乾坤の御德の深く高きこと天地のごとと申しあぐべきである

皇太后陛下にもまた國家艱難の際、種々と皇軍の上に思ひをくだかせ給ひ、赤十字本社に行啓、篤志看護婦の活躍を御覽、また將兵に氷砂糖を賜り、日夜深く戰捷を御祈念と東洋平和の安定を願はせ給ふと承る、そして天皇皇后兩陛下にも增して御待ちかねは、昨春三月廿九日御兩親陛下の御膝下を離れさせ給うて、赤坂離宮脇の東宮假御所に遷らせ給うた皇太子殿下には、日毎若竹の暢びるが如き御發育御成人振りで、御智慧づきも御還かに天稟の御ひらめきも拜されて御健やかであらせらる日嗣の皇子としての御準備にと假御所にお過ごしの殿下には早や御六つ、朝の御日拜、ラヂオ體操に御元氣にわたらせらると承る、今次事變中に雄々しくも御幼少にして御獨拜する御力強き皇子の御まなざし、靑年日本の將來を御双肩に荷はせらるべく、聖上を御輔佐の颯爽たる御英姿を拜するのも間近であらう

英國新帝の戴冠式慶祝の御使命を果させ給ふて昨秋御歸朝の秩父宮殿下、海軍々令部御出仕の高松宮殿下、御七十四歲の御老齡を大本營にて御活躍の閑院參謀總長宮、御六十四歲の伏見軍令部總長宮、王女令子殿下の薨去にも戰線で御活躍の第六師團司令伏見宮博義王殿下の御負傷にもめげさせ給はぬ御奮戰振りに對し、伏見軍令部總長宮妃殿下をはじめ奉り、同若宮妃、梨本宮妃、閑院若宮妃、李王妃、李鍵公妃、李鍝公妃の各皇族、王族殿下が、御共々日本赤十字篤志看護婦人會における恤兵作業に甲斐々々しく御參加、皇后陛下の遊ばされてゐる繃帶卷きに、御多忙なる御日常を送つてゐらせらるのである

事變下のわが皇室はかくて銃後の國民の上に立たせられて、その護りの範を示させ給ふてゐるのである

瑞雲たなびく大内山

戰勝に驕るを警め 禍亂の源泉根絶

關東軍司令官 駐滿全權大使 植田謙吉

本次事變は、上至尊の大御稜威と下軍官民の忠勇義烈と天祐等の然らしむる處により、勃發以來帝國の爲洵に慶賀に堪へざる經過を以て光輝ある其第一年を終り、今日茲に其第二年の新春を迎ふ、感慨更に新なるものあり

惟ふに、世界は今や一大轉換期に直面し、各國民間に於ける物質萬能弱肉强食の暗色に包まれたる舊世界は將に凋落の道程を辿り之に代り「東亞」に於ては、滿洲事變及本次事變を契機として、八紘一宇共存共榮の理想的新世界の建設を見つゝあるは、眞に人類の至幸とする處なり

即ち滿洲國は建國以來民族協和、皇道顯現の實着々として擧り、最近更に治外法權撤廢、伊西兩國よりの承認等により國礎愈よ固く、特に本次事變に際しては、能く日滿一德一心の實を發揮し、日本と協力し、鋭意支那四億の大衆を救濟覺醒し、以て道義世界の建設、東洋永遠の平和の確立に邁進し、北支方面亦日滿兩國よりの懇誠なる友愛的援助により、暗雲始めて啓け、急速に更生の道を辿りつゝあり、斯くの如く、本次事變は、理想世界建設の爲の聖戰にして帝國の行動は實に天意に基き意義深遠、實務眞に重且大なりと謂はざるべからず、而して作戰の推移は、今後と雖も益々帝國の威信を昂揚すべきは贅言を要せざる所なるも、事變の終局時に於ては、内外共に、幾多の難關に遭遇すべきことを覺期せざるべからず

而も之等の難關を見事に突破して、戰果有終の美を收めんが爲には、帝國上下の不動の決心と、金鐵の如き結束とを不可缺の要件とす

吾人はこれに鑑みて遠謀深慮し、唯徒に戰勝の美果に驕るを警め、其機會を捉へ、萬難を克服して東洋禍亂の源泉を根絶し、進みて道義世界の建設に貢獻し、以て普く人類の福祉を增進するの一大覺悟なかるべからず

而して是れ、世界正義の擁護者たる、日本民族の大理想を顯現し、以て畏くも、至尊の大御心に應へ奉ると共に本次の聖戰に殉じたる幾多の英靈に酬ゆるの道たらずんばあらざるなり

茲に聊か所懷を述べて非常時年頭の辭に代ふ

昭和十三年一月一日
關東軍司令官 駐滿全權大使 植田謙吉

世界の新秩序へ

近衛首相年頭の辭

先づ新年の初頭に當り、國民諸君と共に謹で聖壽の萬歲と皇室の御繁榮を壽ぎ奉る

昭和十三年は、明治維新、日露戰爭の當時にも增して日本にとりて意義重大なる年である、維新當時に於て日本は自己の改造のみを問題としたが日露戰爭において日本は東亞的存在として登場した、今日の日本は世界的の進歩的存在であり、その行動の意義は世界的である、是は、直ちに世界の平和、戰爭及び明日の文化といふ諸問題に關係して來る日本の意志は逸脱せる支那を本來の支那に改造し、以て東亞の進歩と安定に宰固たる基礎を與へ斯かる安定的東亞をして、世界の平和的組織の一方の支柱たらしめんとするに在る、又之以外に日本の安全保障の途はない位に日本自身が大きく成長もしたである、本年が如何なる歷史的地位を持つかは後世の史家が記錄するが、今現實に其意義を作り且つ完成するものは、現代の日本國民以外にはないのである、然し如何なる時代の如何なる改革的事業でも保守主義者の妨害がある、今日の

日本の

立場に對しては世界の進歩的國家は共鳴を吝まぬが保守的陣營からは强大なる抵抗と重壓が來りつゝある、光榮ある最後の勝利の前には、猶幾多の段階の全機能を國家的目的の爲に、更に有機的に動員することが必要である、過去半歲に亙る體驗によりて

日本勝利の前には、猶幾多の段階があるものと覺悟せばならぬ、今日、日本にあるものは前進のみ、然して、斯かる國際的難關を出來るだけ平和的に突破するためには、われ〳〵は巨大なる國力の準備を必要とする、其ためには、全國民の全機能を國家的目的の爲に、更に有機的に動員することが必要である、過去半歲に亙る體驗によりて日本人は偉大なる國民たるの素質を立證した、自己の使命に對する認識を正確にして、環境に對する確信を深め、持久の態勢を一層整備せねばならぬ、南京陷落後の國民政府は長江の奧地に分散逃避し甘んじて共產黨の傀儡となり、今や一箇の破壞的集團と化した觀がある、最後まで、彼等の反省を期待した日本としては殘念でもあるが、いつまでも支那人民の幸福を彼等の偏見の犧牲に放任して行くわけにはいかない、一時は厄介でも、彼等のいはゆる長期抗日の根源を封殺し彼等の民衆に對する重壓を排除すれば、そこに本來の支那が躍動して成長するであらう、斯かる雰圍氣の下に東亞の大局を捉へて生れる政權に對しては、日本は十分の同情と支持を吝まぬであらう、南京陷落の際英米國の艦船に對して起つた不祥事件は日本國民の齊しく遺憾とするところで日本はこれに對する十分の責任を感じてゐる、諸國もまた、此の事件に依つて日本政府本來の意志を曲解することなからんことを期待する、此の突發事件と全然別個の問題として、日支問題の本質が依然たる先入的獨斷が世界の

一部に

[illegible]

重大時局に直面して

駐滿海軍部司令官 海軍少將 谷本馬太郎

皇紀二千五百九十八年の新春を迎へ東天に燦然たる旭光を拜し聖壽の萬歲、寶祚の無窮を壽き奉り、併せて國運の隆昌を祈り、戰捷と所懷の一端を述ぶるは誠に欣快とするところである、滿洲國は建國以來歳を重ねる毎に國礎彌々固く躍進的發展を遂げつゝあるは誠に慶賀に堪へないところであつて、日滿兩國の不可分關係も又益々緊密の度を加へ一列强の滿洲國に對する認識も一段と昂まりつゝあるは日滿兩國の共存共榮と東洋平和延いて世界平和の基礎をなすものであることを確信して止まないのである、今次事變勃發以來皇軍は海に陸に空に連戰連捷既に敵の首都南京を陷れ、[illegible]支那一部爲政者或は共產主義者は毫も反省の色無く抗日を標榜し、[illegible]末路を辿りて國民を强要して其の戰鬪の持續を[illegible]禍は全支を覆ひ東亞の和平を亂さんとし、[illegible]列國の動向も今尚[illegible]

日ソ間漁業條約 一ヶ年延長に決定
卅日暫定取極に調印

【東京國通】卅日午後十時外務當局發表＝日本國、ソヴィエト社會主義共和國聯邦間漁業條約の第三回效力延長に關する議定書左の如し

一九二八年一月廿三日署名せられ一九三六年五月廿五日及び同年十二月廿八日夫々署名せられたる議定書により效力延長せられたる日ソ間漁業條約の存續期間は一九三七年十二月卅一日滿了するにより、又一九三七年十二月卅一日前に新條約締結せられざるべきにより大日本帝國及びソヴィエト社會主義共和國聯邦の政府は一九二八年一月廿三日署名せられたる日ソ間漁業條約及び附屬文書が一九三八年十二月卅一日に至るまで效力を存續すべきことを玆に協定す

右證據として下名は各本國政府より正當の委任を受け本議定書に署名せり

昭和十二年十二月廿九日即ち一九三七年十二月廿九日モスクワにおいて本書二通を作成す

重光　葵
ベ・ストモニアコフ

外務當局談

【東京國通】懸案の日ソ間漁業條約は卅日午前二時半モスクワにおいて重光大使とストモニアコフ外務人民委員部次長との間に暫行的再延長の議定書に正式調印を見たので外務省では同日午後十時左の如く發表した

▲外務當局談　日ソ漁業條約の修正協定についてわが政府は本年春以來機會ある每にソ聯政府の反省を促し、速かに昨秋合意に達したところにより新協定の締結を實現し、長期にわたり漁業に關する紛議を一掃せんことを迫つたのであるが、ソ聯政府當局は一向話合の再開に應ずるの氣配を示さず、遂に本年內に新協定の締結望み無きに至り交渉を更に來春に持越さゞるを得ざることゝなつた、仍つてわが政府は取敢ず來年度のわが漁業權行使に支障なからしむるため昨年末と同樣の暫定取極めを結ぶことゝし現行漁業條約及び附屬文書の效力を引續き來年一杯延長することゝなり、所謂安定漁區約二百八十ケ所の契約も同樣延長、總ての點に同樣の條件にて來年度もわが當業者が漁業經營に當り得ることに取計ひ、廿九日モスクワにおいて右議定書の調印をみた、右はソ聯側の態度のため本年內に新漁業協定成立の見込みなく已むを得ず取つた措置で政府としては引續き新協定締結を速かに實現すべく努力することは勿論である

バード號に關し 外務當局發表

【東京國通】レディ・バード號その他英國艦船攻擊事件に關し外務省は卅日午後十時左の如くその經過を發表した

▲外務省當局發表　十二月廿八日廣田外務大臣はクレーギー英國駐日大使の來訪を求めレディ・バード號その他英國艦船攻擊事件に關する左記要旨の回答を手交せり

本月十二日蕪湖及び南京方面において帝國軍艦及び商船が誤つて貴國軍艦及び商船を攻擊した事件に關しては、曩に本月十四日附書翰をもつて帝國の深厚なる陳謝を表明すると共に同種事件再發防止のため直ちに必要なる措置を執りたる旨及び責任者に對し適當なる賠償を行ふべき旨申進めたるに對し、閣下より本月十六日附書翰をもつて本事件の事情を述べられたる後

一、前記本月十四日附書翰を受領したるは英國政府の欣幸とするところなる旨

二、英國政府は右書翰中申進めたる次第は英國商船に對する攻擊についても同樣適用せらるべしとの保障を求むる旨

三、英國政府においては責任者を適當に處置せらるべしとの點を特に重視する旨

四、英國政府はこの種事件の再發を確實に防止するが如き措置が現實に執られたることにつき通報を得たき旨の趣旨御申越相成りたるをもつて取敢ず本月十七日附書翰をもつて前記十四日附書翰申進めの次第は同樣情況の下においては攻擊せられたる貴國商船にも適用せらるべきこと勿論の次第なる旨回答せり、本事件發生するや帝國政府は直ちに眞相究明に努力したるもその後作戰の推移に伴ひ關係部隊分散し通信連絡意の如くならざりし等の事情により調査遲延せるは甚だ遺憾とするところに有之、今般漸く全般的調査報告の接到を見たる處その要領はわが陸海軍當局より貴方に對しなしたる說明の通りなり、右にて御承知の通り今次事件は何れも關係部隊が當時の情況上外國艦船は戰場及びその附近より避難し去り、該方面に存在せし船舶は總て敵兵を有するもの以外あり得べからずと信じ居りたること、又時あたかも濃霧又は靄等のため視認情況良好ならざりし事情等に起因して發生したるものにして決して故意に貴國船舶と知りつゝ攻擊せしものにあらざる點は疑の餘地無之、右は各個の空軍爆擊部隊及び陸軍部隊が貴國艦船たる事を知るや直ちに攻擊を中止せる事實、陸軍部隊がレディ・バード號死傷者の措置に對し救護を與へたる事實等によりても諒解せらるゝところと信ず、なほまたレディ・バード號等の砲擊に關聯し關係陸軍部隊長が揚子江における一切の船舶に對し射擊すべしとの命令を下せる旨述べられたるに對し、帝國政府に於て特に重大なる關心をもつて究明に努めたるところなるが右は敵の軍用に供し居る一切の船舶のみにして、決して第三國艦船をも射擊すべしとの命令に非ざりしこと判明せり

本事件に關する帝國政府の陳謝ならびに損害の保障については既に前記書翰中に表明したるところをもつて盡くべきところ、本事件の責任者の處置に關しては前述の通り本事件は全く錯誤に出でたるものなること判明せりと雖も充分の注意を拂ふ點に於て缺くるところありたるの理由により關係者に對しそれ〴〵必要なる措置を行ひ、この種過誤の絕無を期したる次第なり、次に十六日附書翰にて再び今後の保障に關しては本事件後直ちに帝國陸軍に於ては最大の注意をもつて他の第三國艦船の存在する地域に於ては絕對に今回の如き過誤を繰返さゞるやう努むべき旨嚴重に命令したるほか從來屢々出先陸海軍並に外務官憲に對し訓令濟みなるも更に今回の不祥事件にも鑑み、英國その他第三國人の生命財產に對し攻擊を加へざるやう一層切實周到なる注意を加ふべき旨重ねて嚴命を發せる次第なり、而してこれらの目的の達成を一層有效ならしむべき一切の手段に關して愼重なる考究を重ねこれが實行を期しをる次第にして、即ち貴國居留民及び權益の所在等に關しては更に貴方と充分連絡調査の上適時これを出先に通報し、下級部隊に至るまで徹底せんことを期し、その通信方法についても特に確實迅速を期するやう考慮を加へる次第なり、以上述べたる如く帝國政府においては速かに適當なる措置をとりたることは全く帝國政府が英國ならびにその他第三國の權益を保障せんとするの誠意に出でたるものなることは閣下においても篤と御諒承相成ることゝ信ずるものなり

英國政府抗議書

【東京國通】蕪湖及び南京における英國艦船攻擊に關する十二月十六日附廣田外務大臣宛英國大使公文左の如し

一、本使は本國政府の訓令に基き閣下に對し十二月十二日蕪湖及び南京附近において日本航空機及び陸上部隊が英國軍艦及び商船を攻擊したる事件に關しこゝに申進むるの光榮を有す、之等の事件が重大なる問題を提起するものなるは明白なり

二、玆に於て南京より英國領事、英國陸軍武官及び英國揚子江派遣艦隊付參謀長を搭載し來れる英國曳船は右搭乘者が英國軍艦レディ・バードに乘移りたる後、日本側機關銃の射擊を受けたり、レディ・バード號は護衛のため右曳船に接近せるが、その際アジア石油會社施設物の上流に集結中の商船に對し日本軍野砲陣地より射擊し居れるを見受けたる處、右射擊は引續きレディ・バードに向けられたり

三、同艦には彈丸四發命中し水兵一名死亡、他の一名重傷を負ひ參謀長はじめ數名の輕傷者を出したり、尙英國商船綏和號にも彈丸一發命中せるを看取せり、次で英國軍艦ビー到着せんとした處之を沿岸砲陣より砲擊せられたり、ビー艦々長抗議をなすため上陸せるところ蕪湖における日本陸軍先任將校橋本大佐は軍艦に對する砲擊は誤ちに基きたるものなるも江上における一切の船舶に對し射擊すべき命令をうけ居れる旨述べたり、その後會見の際同將校は何れの船舶も江上を移動したる場合は砲擊せらるべき旨斷言しビー及びレディ・バードは抗議せるにも拘らず投錨後、直射距離にて野砲を向けられ居りたるものなり

四、南京上海下三山附近においてさきに日本軍司令長官が安全地帶として指定せる水域に英國船集中し居りし處、日本軍航空機は右商船及びこれと共にありたる英國軍艦クリケット及びスカラブに對し三度にわたり爆擊を加へたり

五、英軍艦に對する不法攻擊につき日本政府が深甚なる陳謝を提示し、この種事件再發防止のため直ちに措置ありたる旨を述べ、更に責任者に對しては適當なる處置を執ると共に必要なる賠償をなすべき旨附記せる十二月十四日附貴翰を受領したるは英國政府の欣幸とするところなり

六、英國政府は貴翰中英國商船に對する攻擊につき言及なきを認め本使に對し貴翰御申越の次第は總て之等商船に對する攻擊についても同樣適用せらるべき旨の保障を求むる樣訓令寄越したり

七、英國政府は責任者は適當に處置せらるべきとの御申越を特に注視するものなり、英國政府は本件攻擊事件の責任者を充分處罰することこそ今後この種暴行を防止する唯一の方法なりと思量す

八、英國政府はさきに日本政府が英國臣民及び財產に對する攻擊につき遺憾の意を表する、之が再發防止のため充分なる處置をとりたる旨保障せられたる諸事件を想起せざるを得ざるものなり、英政府はその駐支大使が南京より上海に向ふ途上において受けたる攻擊、その後同樣の旅行の途上において英國官吏を搭載せる自動車に對し加へられたる攻擊、上海周邊防備區域において英國非戰鬪員及び守備軍陣區に加へられたる攻擊及びその他の事件ならびに現下の日支紛爭中第三國の利益を充分尊重する意向なる旨の日本政府屢次の保障を想起するものなり、この種攻擊防止のため日本政府が從來執られたる措置は今迄のところその目的を達せざりしこと明白にして英政府はその不滿とする諸事件を確實に防止するが如き性質の措置が現實に執られたる旨の通報を要請せざるを得ざる次第なり

大本營に御親臨の大元帥陛下（宮內省御貸下）

日伊通商追加協定 正式調印を了す

【東京國通】日伊兩國間の通商條約追加協定は堀田駐伊大使とチアノ外相との間に卅日午後六時半ローマにおいて正式調印を見たので、外務省では同日午後十時左の如き當局談を發表した、なほ同協定は來春早々の樞密院本會議に上程批准を經て效力發生を見ることゝなつた

▲日伊通商協定締結に關する外務當局談　帝國と伊國政府との間に交渉中の日伊通商條約追加協定は最近妥結を見るに至り、十二月卅日ローマにおいて帝國全權委員たる在伊堀田大使とイタリー國全權委員との間に調印を了した、本協定は昭和十一年十二月帝國政府がエチオピアにおける帝國公使館を廢止し、その代りにアヂスアベバに領事館を設置したのに胚胎したものである、すなはち當時伊國政府は帝國政府に對しエチオピアにおける通商等に關する帝國の利益を尊重し、右に對し特に好意的考慮を加へる旨言明したので帝國政府は帝國がエチオピア帝國との修好通商條約により有した諸權益を確保する目的をもつて伊國政府に對し通商取極めの締結を提議したところ伊國政府は欣然これに應諾し現駐伊大使及び堀田大使並に前駐伊大使杉村が來りローマにおいて折衝を續けたり今般圓滿な妥結を見たものである、元來現行の日伊通商條約（大正二年六月十七日公布）はイタリー國側では本國にのみ適用しをり其ため植民地たるリビア、エレトリア及び伊領ソマリーランドと屬地たる伊領多島海諸島とは本邦は無條約關係だつたものである、しかるに今回前記エチオピアに關する通商取極め締結の交渉中に日伊通商條約の適用をひとりエチオピアにのみ擴張するよりもエチオピアを含む伊領植民地及び屬地の全部に擴張しようといふことに話が纏つたものである、ところで日伊條約中にはそのまゝ伊領植民地に適用し難い規定があるので、植民地の實情に副ふやうに條約文に適當な變更を加へた次第である、なほみぎ變更以外に重要なのは現行日伊通商條約は一ケ月の豫告をもつて何時にても廢棄し得る條件にあるを本協定といふものにその有效期間を三年に延長してすぐには廢棄出來ぬやうにするとゝもに滿後一年宛延長し得ることにした點と帝國が新滿洲國に與ふることあるべき關稅上の特惠を最惠國待遇の除外例として新にイタリーが認めた點である、右の對滿特惠は日滿一體の見地からいつて特に重要な點である、エチオピアはエレトリア伊領ソマリーランドの二植民地と併せてイタリーでは伊領東アフリカと公稱されてゐるが、エチオピアにつきイタリーと通商條約を締結したのは曩にドイツがあり、今わが帝國があるのみである、日伊兩國は政治方面においては曩に日獨伊防共協定の成立より緊密なる關係に立つやうになつたが今また通商方面においても新協定の成立を見るに至つたことは洵に慶賀に堪へたいところである

日本人の資產を片つ端から破壞
青島の暴擧愈よ募る

【青島卅日發國通】狂亂の在青島支那兵により全市の重要建築物は刻々に爆破され、今や崩壞の危機に直面するに至つた、卅日朝來支那兵は日本人權益を目標に青島の麥酒會社及び倉庫を片つ端から爆破し始め海岸沿ひの日本人工場倉庫及び浮船渠は目下火焰に包まれて居り、玆兩三日以來市內の情勢は南京陷落前の動搖に髣髴たるものがある

【上海卅日發國通】青島の情勢窮迫を知るや支那軍は廿九日夜陰に乘じて電信局、電話局及び放送局を爆破し、つひに自ら通信連絡を遮斷する自棄的暴擧に出たが、危險にさらされた多數の外國人および支那人は廿九日英國船順天號に搭乘して上海に避難し、殘留の外人は自警團を組織し、危險を避けんがため最大の努力を拂つてゐる

西部占領地への避難民復歸許可

【上海卅一日發國通】在中支方面陸海軍當局談＝卅一日よりわが軍は一般避難民の上海西部方面における占領地域內への復歸を許可することゝせり、向後占領地域內において生ずることあるべきわが軍および海軍陸戰隊に對する一切の敵對行爲ならびに犯罪は悉く從來公布し來りたる布告に基き處斷すべく、第三國人と雖もその自由は保障せられざるべし、右は專ら自衞上の必要により出でたる措置にしてわが軍は屢々聲明せる如く常に各國の有する諸條約を尊重し外人の生命財產の健全保障に努力すべきはいふをまたざる次第なり

大崑崙占領

【濟南卅日發國通】廿八日淄川を攻略した石田部隊は更に西方に進擊を續け、泰山山脈を切斷して猛進、廿九日午後四時淄川南方四キロの七里店東西の線に據り迫擊砲を有する有力な敵と激戰、これを擊破し三十日午前零時博山北方十キロの大崑崙を占領した、博山以南は泰山山脈の峨々たる山脈を控へその西南方の泰安に通ずる道路上には一大天嶮に當れば萬夫も拔く能はずと稱される青石關の嶮難がわれを遮つてゐる、南關より敗走する谷良民二十二師一千餘は博山附近にあつて抵抗を試みたが何れも擊破され西南方高地方面に潰走しつゝあり、石田部隊は其快速ぶりを發揮し續いて南方に進擊中である

各要地爆擊

【上海卅一日發國通】艦隊報道部卅一日午前十一時發表＝一、海軍航空隊は昨十二月卅日午後河南省舊都洛陽を空襲同飛行場に待機中の敵爆擊機三機を爆破し、格納庫及び兵舍數棟を倒壞炎燒せしめたり　二、また他の部隊は津浦、隴海各沿線の要地を攻擊、兗州、徐州、沂州、海州、日照にそれ〴〵敵裝甲自動車、貨車、密集部隊、敵陣地等を爆擊せり

偶語

世界戰爭以上に世界に波瀾を捲き起した昭和十二年であつた▼スペイン問題を中心に歐洲諸國が極めてデリケートに動いてゐるとき極東では滿ソ國境に於けるソ聯の度重なる不法越境は竟に乾岔子事件となつて爆發した▼同事件に相次で暴支の抗日侮日排日は蘆溝橋事件となつて表面化し▼隱忍自重極力不擴大方針をとつてゐた帝國も此處にたて斷乎暴支膺懲の師を進めるに到つた▼畏くも大元帥陛下の御稜威と天佑に皇軍の向ふところ敵なく連戰連勝北支五省を平定し更に支那排日の策源地上海を屠り▼遂に敵都南京を陷れ蔣介石を遠く重慶に遁走させる等皇國有史以來の大捷を博したのである▼連戰連敗に血迷へる支那は第三國を渦中に介入させ有利に事態の轉換を計らんと策動せるも正義日本の前には暗雲悉く霧消して更に效を奏せず▼時恰も歐洲に於ける排共國家獨伊と我が帝國の間に防共協定を結ぶに至り大亞細亞建設の聖業は着々として軌道を進みつゝあるのであるる▼されど戰は今後に殘されてゐるのである我々國民は新春を迎へると共に銘記せよ〳〵勝つて兜の緒を締めよ〳〵と

東洋平和の黎明を告ぐ
毅然たる聖戰下の元旦
遙か戰線を想ひ英靈に祈る
新しき熱意の昭和十三春

東洋平和の黎明を告げる皇紀二千五百九十八年の新春は來た、建國以來未曾有の國難に直面しながら祖國日本の往く所敵無く、明治廿八、三十八兩年以上の戰捷の感激の中に迎へ榮え行く御代を壽ぐ昭和十三年、しかし此の戰捷に醉ふこと無く勝つて兜の緒を締めて今次聖戰の意義に完全に達成して光輝ある平和を回復するべく全國民無言の誓の中に年は明けた、元旦午前零時新京神社々頭は早くも此の國民の熱意を象徴する如く篝火はあか〳〵と燃えてその中を嚴寒を衝いて初詣での參詣人が次から次へと絶間無く續き今年も又一年を平安に送れる樣にと祈ると共に前線各地に護國の華と散り九段の坂に躍無き凱旋をした英靈とそして最愛の子を夫を失つた遺族の上よ安らかなれとしばしの默禱を捧げて神前で額づくので有つた、靜寂な境內は緊張した拍手の響に滿ちほの〴〵と夜は明けて「神苑朝」を描いてゆく、今頃は前線にも我が忠勇なる皇軍將兵は初日を前に東方祖國の皇居に向つて遙拜の捧銃をしながら昭和十三年を迎へて居ることだらう

初日の東方遙拜
兵站部心づくしの祝宴場に
冷酒酌んで歡聲！第一戰の正月

【〇〇にて國通特派員】新春の黎明を迎へた黃河々畔はまさに冷嚴一徹の蕭條たる風景だ、曾つて濁流渦巻いた黃河は半ば氷結を見せ、巨大な氷塊を絶へず河口の方に押流してゐる、僅か凍りついた楊柳の樹枝が氷花の樣に輝いて、この荒涼たる風景に一抹の風趣をそへてゐるのみである、河岸の楊樹の影には何時に變らず儼然たる歩哨の姿が見える銃を小脇にかゝへ最前線に凛然と立つ兵の雄姿は如何なる名匠も作り得ない立像だ、殺伐極まる〇〇に屯し待機の姿勢にある〇〇部隊は初の陣中正月を迎へてます〳〵ハチ切れさうな元氣さである、元旦第一線部隊本部では初日の出と共に肌凍る寒風を衝いて全將士集合部隊長の號令一下捧げ銃を行つて東方を遙拜、聖壽の萬歲を奉唱した後各部隊毎に兵站部の心づくしに成る祝宴に移つた

□

祝宴場に當てられた部隊の宿營民家の前には杉の小枝でつくろつた俄か造りの門松が微笑ましい故國への思慕を現はしてゐる、その上に結び目のある日章旗がハタハタとはためいてゐる、支那家屋と使役の支那人を除けば一寸日本の正月風景を想起させるに充分だ、どの兵士も眞新らしい軍服に身を固め靴までピカ〳〵光らせて集つてゐる、歩哨に警備に落着かぬ兵達も今日ばかりは剃立ての美しいニコニコ顏だ、津浦線作戰の開始以來の筆舌に盡し得ぬ辛苦もこのひと時で一氣に吹き飛ばされた形である、宴の膳立は冷凍魚ながら伊勢海老をはじめ數の子、ゴマメ、勝栗など一通りのものが集められてゐる

おいこんなところで內地と同じ正月をするとは思はなかつたぞ

フーフー言ひながらお屠蘇にかじりついてゐた伍長殿が突然顏を上げて叫んだ

さうだよ、これで女房の酌で一杯やれると申分ないがな

冷酒をぐつと飲み乾した軍曹殿が言下にこれに應じるとどつと爆笑が起る

□

「青島の日本の工場が山東軍に壞されたつてほんとか？」

「お前未だ知らないのか、間抜けだな、こいつ……」

「おい、早く海に出たいな綏復渠の首ッ玉を押さへてギューギュー言はさなきやあの野郎目が覺めんぞ」

忽ち起る兵士達の雄だけしい合唱の聲、「天に代りて不義を討つ」の歌だ、命令とともに今にも飛出さんばかりの横溢した氣合振りだ、爆笑と歡聲が杜絶えて宴が終ると宿營の支那民家に歸つて裝備の手入れにふける者、三々伍々河畔を歩く者、兵士の姿を認めて集る支那人の子供を相手におぼつかぬ支那語で話合ふ者戰地の迎春は緊迫感を外に和やかな陣中風景を隨所に見せてゐる

日滿間また短縮
一晝夜連絡へ
日本海經由、鐵道省乘出す

【東京國通】日滿連絡の最短距離である東京から新潟北鮮を經由して新京へのコースを一日半で連絡する計畫が鐵道省運輸局で樹てられ近く實現の機運に達してゐる、このプランによれば東京、新潟間の上越線急行を二時間短縮してきつちり五時間とし、新潟港より北鮮の羅津港までの日本海横斷航路八百五十五キロは目下就航してゐる日本海、北日本兩汽船會社の二晝夜航海を一晝夜に短縮し、七千噸級時速二十五ノット、乘客一千四百名、貨物積載量九百トン程度の新鋭連絡船三隻を一千萬圓を投じて新造、更に羅津から吉林、新京までの滿洲國鐵道總局北鮮、京圖兩線六百九十三キロ八の區間は滿鐵側のスピードアップ着手によつて快速デイーゼル列車を運轉し、時速百キロで走破して七時間となし茲に日滿間の交通に新紀元を劃する三十六時間連絡が完成される、新コースは總キロ數一千八百八十キロ九四でこれまでの東京から朝鮮經由新京までのコース二千六百六十七キロ五二に比較し七百八十六キロ四を短縮した線でもあり、愈々緊密の度を加へつゝある日滿聯絡のスピードアップと東日本から滿洲への輸送ルートとしての重要性と相俟つてその實現は期待されてゐる、鐵道局は新年早々運輸局船舶課から新造連絡船の設計を發表し運輸課と共に準備に着手する筈で新潟の改修、日本海就航中の汽船會社との折衝等に就いては關係各省とも協議し滿鐵に對しても速度向上の準備を求めることになつた

寅年生れの姐さん達

國都花街はかつて見ざる爆發的好景氣に惠まれてホク〳〵と越年、猛進果敢を象徴する時局柄まことにふさはしき寅年を迎へた、この年に因む我が世の春を謳ふ國都花街の姐さんを紹介しやう、左は代表する姐さん連 年は廿五歲、意地でと酸いも甘いも嚙み分けた正に油の乘り切つたところ、運命に强いと言ふ寅年生れの姐さん達、この年こそはと幸運の眞一文字、猛進せんとするいづれも張り切つた面貌ではある 時は戰時體制超非常時局下果敢に突進すること、また以外の幸運も摑めやうと言ふものである

【寫眞右上から小艶(曾我之家)一葉(永樂)おもちや(共榮)菊龍(南海)若代(吾妻)延太郎(千草)多賀丸(千鳥)京千代(八千代)讓太郎(新杵)玉奴(蔦之家)愛千代(千鳥)】

北京無電臺
けふ放送開始

【北京卅日發國通】正月元旦を期して支那全國民にデヴューする北京中央無電臺の大電力放送は、元旦午後六時から行はれるが、まづ周大文臺長の開會の辭に引續き王克敏行政委員長、江宗朝北京市長ならびに日本側を代表して喜多少將の祝辭があり、同七時程硯秋、楊小樓、金少山など在北京名優等出演放送する筈

鮎川義介氏
七日ごろ來京

滿洲重工業會社總裁鮎川義介氏は母堂ナカ子刀自の初七日を濟まし一月七日頃來京新設會社の采配を振ることゝなる模樣である

颯爽馬上の植田軍司令官

日本の生命線盟邦滿洲國の護りの重任を帶ぶ關東軍司令官植田謙吉閣下

優秀輕飛行機
飛行協會買入れ
今秋北支新政府訪問

昭和十一年九月颯々の聲をあげた滿洲飛行協會は創立一ケ年にして關東州、奉天、新京、哈爾濱の四支部を設置するに至り十二年十月には第一回全滿グライダー大會を新京南飛行場で擧行航空第二線の若鷲二百名參加空前の盛況裡に豫期以上の成果を收めるなど驚異的發展を遂げたが今次支那事變に於ける海陸荒鷲の活躍を映して各地支部の猛練習は着々技術の向上發達となり遂にグライダーの域を脱して愈よ輕飛行機時代へと一歩を進め協會本部では輕飛行機のうちでも最も優秀なる性能を有するビッカース機五台を發注二月早々奉天着同地で組立て本部及び各地支部に一台づつ配布し飛行機と共に來滿する獨逸技師の指導にて練習を開始し初秋の候を期し北支新政府を訪問大亞細亞建設の交驩を行ふべく計畫が進められてゐる、かくて昭和十三年の滿洲航空界は滿航の航空網擴充滿洲國政府の航空各種施設航空學校設置等と相俟つて航空第二線に不滅の金字塔を打ち建てるものと期待をかけられてゐる

本廳中心主義を廢し
各署分散主義へ
新春期し司法陣改革

治外法權撤廢と共に首都警察陣の一元化に伴ひその陣營は一層强化され當局者をして國都の治安磐石なりと言はしめたものであつたが、未だ過渡的過程にあるもので、これが機構運用については期待するところ將來に俟つものであつた、殊に治安に最も密接な關係ある司法陣については警察權統一と共に本廳防犯股捜査股に人容を集めて所謂本廳に主力を集中する方針のもとにそのスタートを切つたが、實際問題として功名を我が手にせんとする競爭心理の必然的な現はれは延て犯罪發生の連絡並に犯人捜査等の上に於て各署間に或は本廳及各署にと各刑事間の相剋等生れ隨つて完璧の運用また期し難き缺陷があり國都司法陣强化の爲に一抹の暗影を投げかけた感あつた爾來一ケ月の動きを靜觀しつゝあつた中島司法科長は今回敢然として從來の本廳主力集中主義を一擲して管下各署の陣營を强化せんとする分散主義を採用することに決心し新春早々この新方針の實現に向つて邁進せんとするもので、之が實施は國都司法陣の劃期的大英斷として今後同科の活躍は頗る注目されてゐる

南市電々總理
陸伯鴻氏兇漢に斃さる

【上海卅日發國通】廿九日凡ゆる摘勢を排除して市民の救濟に乘出した上海市民協會のメムバーの一人上海財界の巨頭南市電燈電車總經理陸伯鴻氏は三十日午後二時佛租界呂班路に於て友人を訪問の歸途自動車に乘らんとした刹那蜜柑賣に變裝して徘徊中の支那人兇漢のピストルの狙擊を受け二彈が命中重傷を負ひ直ちにセント・マレイ病院で手當を受けたが同三時絶命した、犯人嚴探中

末光大佐離京

察哈爾作戰軍に〇〇隊長として從軍、察哈爾、山西、綏遠の各戰線に戰功を樹てた末光元廣大佐は、今回內地中央部へ榮轉することゝなり、卅一日午前十時發ひかりで朝鮮經由赴任の途についたが、關東軍を始め日滿官民多數の見送りがあつた

强ク正シク偉イ人ニナレ
全國小學生に與へる寺內大將の言葉

日本ノ小學生ノ皆サン、新年オメデタウ、皆サンハオ父サンヤオ姉サンカラ聞イタリ、朝夕ノ新聞デ讀ンダリ「ニュース」デ見タリシテ、ヨク御存ジデアリマセウ。日支事變ニハ日本ハ支那ノ何處ニ行ツテモ、支那ノ兵隊ヲウチ負カシマシタ、トウトウ支那政府ノ親[illegible]デアル南京デサヘ陥落サセタノデス、ソンナホド、日本ノ兵隊サンタチハ强ク、シカモ偉イ働キヲシマシタ。日本ノ兵隊サンタチガ、大事ナ命ヲ的ニシテ働イタノモ、ミンナ天皇陛下ノ御タメ、オ國ニアル皆サンタチノタメナノデス。內地ノオ正月ハ寒イデスカ、私共ノ居ル北支那ノ地ハ隨分寒クアリマス●コノ地デタクサンノ日本ノ兵隊サンガオ正月ヲムカヘマシタ、コノ强イミナサンノオ兄サンタチ小父サンタチデアル日本ノ兵隊サンニ負ケナイヤウ、日本ノ小學生ノ皆サンモ、先生ノ教ヘノトホリ、ヨク勉强シ、ヨク運動シテ、强ク、ソウシテ正シク偉イ人ニナラナケレバイケマセン。コレガ、オ正月ニ皆サンニオクル私ノ言葉デス。

內務省のダンス彈壓決意は滿洲でも各方面にセンセイションを捲き起した▼滿洲國の大官要人で相當ダンスに熱を浮かしてゐるものもゐるがこの人等に意見を聞いてみると▼A、個人の趣味としては好きだがその害毒は認める、B、國策とあればこれに順應して行くより仕方ないさ、好き嫌ひは問題にしておられぬ▼非常に苦し想だつたが見方に依つてはこれ程ハツキリとした解答はあるまい▼わしはあんな亡國遊戲は大嫌いぢや、みてみても胸が悪くなると常に口にしてゐた徐特別市長は密かにほくそ笑んでゐることではあらう▼非常時丑歲にこんな威勢の良い事件を最後に暮れ明くれば慓悍獰猛な寅歲だ、さてどんな事件がとび出すことやら

謹賀新年

新京日日新聞

入選創作(一等)

流民

大陽一雄

其の三

――小雪混りの雨はビショ〳〵と地面を打つてゐた

再び〃汪宗成〃と云ふ聲に汪が書類の入つた腹巻を抱込む様な大袈裟な恰好をしながらあたふたと出て行つた後は又元の不氣味な沈黙が人々の胸にそれ〴〵な形になつて押迫つて行つた

四方の壁が灰色に汚れてゐて天井の高いガランとした粗末な部屋の中は据滅つて半分程ひつ傾いた木製の椅子が四個と同じ木製の長椅子が二個妙にすました恰好に置かれてゐてその略ぼ中央邊にちつぽけな、しかも眞黒に燻つたストーブがぽつねんと一つ坐つてゐるだけで何の興味もない冷たい感じを漂はせてゐた

不馴な汽車の旅に疲れ切つた陳は偏片の壁にぐつたりと體を托して口を開けたまゝ氣持良げに輕い鼾をたてゝゐる

劉は妙にかすれた氣持になつて薄暗い灰色の此の部屋から硝子戸越にさむ〴〵と落ちてゐる外の雲に目を遊ばせてゐた

不自然な恰好ではあつたが無氣味な此の部屋の中の空氣を何の所作もなくぢつと見守つてゐるより氣が利いてゐると思つたからだつた

部屋の隅に蝸牛の様に丸まつこくなつてゐた曹は、最前からその白髪頭を振りながらよれ〳〵になつた紙幣を數へてはロの中で獨言の様に何かぶつ〳〵呟いてゐた

「一畝がたつた十九圓か」吐出す様に云ふとヂユーッと鼻汁を啜り上げた

「曹さん、そんなに怒つたつて仕方がねえよ、相手が衛門ではなー」劉は先程からこの部屋の軍隊に堪兼てゐたが強ひてそれを押除けると慰さめる様な口調で云つた

「あゝ俺あもう諦めただ、何とも思つてやあしねえよ、だがた劉さん年だけやとりたくねえもんだなー」

「莫迦な、だからおめえはいけねえよ、みんなまだ〳〵若えでねえか、こんな事でへこたれるなんて意氣地がねえよ昔の事は昔の事、俺達は又新しく出直しさ、その内にはきつと良い事も有るよ」滅入つてゆきさうになる氣持を勵ましながら曹を慰めてゐるつもりだつたがそれは曹に云ふよりも寧ろ自分自身に云ひ聞かせてゐる言葉だつた

「でもな、家の……」云ひかけて曹はそのまゝ口を噤んでしまつた

劉はハッとした、そして瞬間負嫌ひの曹の女房の顔がサッと頭をかすめた、働いて働いて身が粉になるまで働いても八人の子供をかゝへた曹一家の生活は一向樂にはならなかつた、それはかりか今年の早魃で北滿殊に彼等の住む圖佳線一帯は農作物と云ふ農作物は殆ど枯れ盡して十一月だと云ふのに早食ふ物さへない有様だつた、曹は勝氣な女房の爲に一日中働いて疲れて歸つても面白い日は一日もなかつたかうして親と子程年の違つた夫婦が毎日血の出る様な争ひを續けてゐるのも元はと云へば皆生活苦からだつた

恰も三岔口は××鐵道布設の爲とそれに伴ふ工場用地設置の爲彼等の農地は官に買ひ上げられる事になつてゐた、荒漠たる原野を汗と血と幾多の犠牲とに依つて開墾し幾度かの匪襲にも撓まず今日まで親んで來た農地と別れなければならなくなつたのだつた

文字一つ知らない彼等だけに彼等の唯一の財産である農地を、しかも安値な價格で買上げると云ふ事は或は無慈悲であるとも云へるのだつた

劉は元、河北省から流れて來た苦力だつたが彼本來からの眞面目さが彼をこの土地に落着かせそして今日に到らしめたのだつた

だが土地が買はれゝばその土地内にある彼等の家は當然壊されなければならないのだ

そして彼等はこの地を追はれて行かなければならないのだ

現金は貰へる、だが不作だつた今年は食ふ爲のみの借金だけにでも足るか否かが問題だ

從へそれが豫想以上の高値で買上げられたとしてもこれから先一家が流れて行く汽車賃にも足りないに定つてゐる、だのに一畝がたつた十九圓とは、一體俺達はこの先どうなるのだ、どうしろと云ふのだ〃嫌だ、嫌だ〃、劉は苦しげに長椅子の上に跪いてゐた

〃劉周三〃ドアーの外から大きな聲があつた、部屋の内はストーブの火が消えかゝつたのか、ヒヤリと冷たいものがあつて外は相變らず雲だつた、劉は立上つてドアーを押すと案内人と一緒に天井の低い長い廊下を歩いてゐた

幾つかの角を曲つて丸い硝子窓の廊下へ出た時、下を向いて此方へやつて來る汪に遭つた

「どうだつた?」劉は小聲で聞いた

「曹さんと同じ」汪はかすかに答へると下唇を嚙んでそのまゝ廊下の向ふへ消えて行つた〃畜生!!〃瞬間劉の胸の底にはむら〳〵とするものが有つた

やがて廊下は盡きて案内人は正面の室の扉をコッコッと輕く打つた、室内から聲があると案内人は劉を押込む様にして自分は次の室に入つてしまつた

室内は十五六の机が行儀良く並べられてゐて、十二、三人の人達が皆忙しげに大きな帳簿の様なものを擴げてその前に屈込んでゐる

一番奥まつた大きな机には、髭をたてた四十五六の金口のパイプを咥へた男が見下す様にジロッと劉に一瞥をくれた〃クソファン〃劉は負けずに撥返す様な目附でその男の顔をぢつと見返した

「名前は?」

「劉周三」

茶褐の戸棚を背にした若い男が度厚い眼鏡越にどなつた

「年は?」

「三十九才」

「家族は?」

「妻卅六才、長男十二才、次男九才、三才の女の子一人」

「本籍は?」

「間島省延吉縣三岔口第三區六號」

「アン?」若い男は疑ろ様な口調で問返した

「間島省延吉縣三岔口第三區六號」

「君は中國から來たのではないのか?」

「イ、ヤ、俺は生れた時から今の處ですよ」

「さうか、現住所も同じだね執照は?」

(略)(歴) 大正八年一月長野縣に生る 昭和十一年三月長野縣木曾山林學校を卒業、同年四月渡滿、實業部林野局に勤務現在に至る、在學中若草、蠟人形に投稿入選數回 渡滿以來川柳國都吟社に入りたれど感ずる處あり一時中止、現在專ら詩創作等に執筆、最近の作に「沈香」「一噓」「鴉片」等あり

「エ?」

「執照だよ」

「エ、」劉は腹の邊に手を入れるとぼろ〳〵になつた二枚の紙切れを大切さうに取出した、これこそ中國から追はれて來た祖父が裸一貫の水飲百姓から叩き上げてやうやく買ひ溜めた土地だつた、だが既にその大きな面積の方は妻が病氣の時借りた金や夏からの食物の爲め借りた金の抵當同様な形にさへなつてゐるのだつた

「これか」若い男は無造作にそれを掴むと向ふ側に坐つてゐる日本人に何か云つてゐたがやがてパチ〳〵と算盤を弾き出した

天井の高い室内ではあるが何か知ら白々しいものが室内一ぱいに充滿してゐて金口から流れ出る煙草が妙に劉の鼻を衝いた

大きな帳簿の蔭の若い事務員が二人何かコソコソ話を始めると金口は何物かを探る様な目附で絶えずキョロ〳〵と邊を見廻してゐた

「一畝當り平均十八圓五十錢計六百五十六圓七十五錢也」若い男は事務的に云ふと厚い眼鏡越に冷たいものを光らせてゐた

〃三响五畝五分の地がたつた六百五十圓、祖父から俺の代までに俺達はたつた六百五十圓きりの土地しか持つてゐなかつたのか、何と云ふ事だ、何と云ふ情ない事だ、これで何と云つて家へ歸れるのか〃

劉は大聲を上げて泣き出したい氣持をぢつと持ちながら先程來た廊下をとぼ〳〵と歸つて行つた

「どうだつた劉さん」部屋に入ると皆待ちかまへてゐた

「皆んなと同じさ、ハ、、、」劉は不自然に顔を歪めて金口の室まで聞える様な大聲を上げて笑つた、だが誰の耳にも白々しく只悲しく響くだけでそれに合はす者は一人もなかつた

曹は鼻汁を啜り上げては泣いてゐた

〃莫迦泣くなんて、莫迦な〃

「ぢやあ皆行かう」劉は大聲でどなると雲の中をビショ〳〵になりながら停車場の方へ飛ぶ様に消へて行つた。

◇……◇

待合室も苦力の群で一ぱいだつた

溢れ出た人々は構内の冷たいコンクリートの上にそのまゝ腰を下してゐた

長い煙管で粉々になつた煙草を吸つてゐるもの、眞黒になつた煎餅蒲團を大切さうにかゝえてゐるもの、洗面器と柄のひん曲つた柄杓を持つたもの、懷に赤ん坊を抱入れて青黒い乳房を含ませてゐる女、荷物の蔭にコクリ〳〵居眠りをしてゐる老人、キャツ〳〵と嬉しそうに走り廻つてゐる子供達、それ等の人々の吐出すニラの匂ひと何ケ月か何年か水に觸れた事のない汗ばんだ體臭がプーンと堪へられない不快な臭氣を漂はせてゐた

山東邊から流れて來た苦力の群だ、もうこの町にも彼等の爲す仕事は無いのだ、そして彼等は再び死もなくさまよひ出したのだつた

劉達の群も構内の隅の方に陣取つてゐた、人々は先程から湯氣の立つてゐる褐色の粟饅頭をムシャ〳〵やつてゐたが、曹は家へ持つて行く少しばかりの土産物を大切さうにだき込んで抜歯の間を堅い大豆が柔かになるまで口の中を彼方此方に轉しまわしてゐた

劉は、つと立上ると洗面室の水道管に口をあてゝ冷たい水をゴクリ〳〵と流しこんだ、朝からまだ何も食つてゐないのだ、始めて乘つた汽車の爲め疲れと朝からの興奮とで食物も咽喉へ通らないのだつたそして又元の位置に歸ると人々の群を憐れむ様な眼差でぢつと見つめてゐた

――汽車が入ると苦力達は押合ひ押返してはロ々に何か喚きながら吾先にと乘込んで行つた、子供が潰れそうな悲鳴を上げ、懷の赤ん坊が泣き叫んでも人々は一向無頓着だつた、劉は片手で子供達への土産を高く差上げると片手で金の入つてゐる腹巻をしつかりと抑へながら用心深く乘り込んだ

車内は滿員で立つ場所も無い有様だつた、臭い石炭の匂ひが車内に流れ込むと間もなく汽車は動き出した、子供達はキャツ〳〵と騒ぎ廻り老人は不思議そうにキョロ〳〵周圍を見廻してゐる

少し落付くと劉は硬い椅子の上で靜かに眼を閉じた――――

妻の病氣の時甲長に借りた金が二百圓餘りと、長男の醫者代が七十圓程と、街の王さんに作つてもらつた車代が十八圓と、甲長に借りた馬代が二圓と、宗さんに粟と大豆の金を百圓程と、それから……それからエーと、汪等が耳元で何かくど〳〵喋つてゐたが、疲れ切つた劉はそのまゝウト〳〵と夢の中へ落ちて行つた

劉がふと眼を開いたのは夜だつた

流石に子供達も疲れたものかぐつすり寢込んでゐるらしかつた、汪達も氣味良げな鼾をたてゝゐたが曹だけは相變らず大豆を口中に轉ばせながらぶつ〳〵何か呟いてゐた

雲はまだ降つてゐるらしく白いものが車窓にぶつかつては消へていつた、晝間に比べて夜汽車は死人の様に靜だ

「今何時だらうた曹さん」

曹は不機嫌さうに首を傾けてゐたが何か云ふとそのまゝ默りこんでしまつた

〃可愛さうな老人よ、お前は何時になつたら幸福は日を迎へ得るのだ〃只働いてゐればそれで良いのか、だが俺達は決して虚榮とか榮華を望んでゐるのではない、俺達は先づ生活の安定を得たいのだ、だが見ろこの人達を、働けるだけ働いて仕事が無くなると又元の無一文のまんまあてもなく流れさまよつて行く哀れなこの人達を見ろ

毆られても〃沒法子〃蹴飛されても〃沒法子〃、彼等のたつた一つの恐怖は食へないと云ふことだ、だがその食へない事は毆られ蹴飛ばされる最先に味はなければならない事實なのだ、食ふ爲に生れ食ひ盡して死んで行けばそれで良いと云ふのか、食ふと云ふ一つの滿足を得れば蹴飛され踏躙られてもそれで良いと云ふのか、あまりにも淋しくあまりにも情ないではないか、世の中はそんなものでもつて良いのだらうか、人々よ何故默つてゐる、何故返事をせぬか、人の事ではないお前達自身の事を云つてゐるのだ、お前達の生きる事を云つてゐるのだ、だのに何と云ふ無智な何と云ふ無力なお前達なのだ、莫迦、莫迦、だからお前達はこの老人の様に働いても働いても滿足の出來た一日も無しに一生を終へるのだ、見ろ、この哀れな老人を彼は既に死の瞬間に直面しながらまだ明日一家が食ふ事の心配をしてゐるではないか、莫迦奴

劉は昂ぶつて來るものゝ苦しさにそのまゝ眼が冴えてしまつてゐた

曹は劉のかうした感情を他に相變らず堅い大豆を口中に轉しまわつてゐるのだつた

夜は明けた、だが雲は止まなかつた、朝だと云ふのに車内は重苦しい冷氣がさむ〴〵と人々を押包んでゐた

凍つた車窓に映ずるものは單調な灰色の空が何の變化もなしに大地を覆つてゐる事だけだつた

眼を覺した汪等がねむさうな眼を大きな青黒い掌でゴシ〳〵擦つてゐた、曹は朝になつて疲れが出たのかぐつすりと眠込んでしまつた

「もう何時だらうなー」陳がねむたげに云つた

「さあー」汪はそのまゝ口を噤んでしまつた

邊りは貧しい苦力達で誰一人時計を持つてゐる者もなかつたからだつた

昨日からの事が一ケ月も前にあつた事の様に寢不足と疲勞の爲、かすれ切つた頭の中を夢の様に往來してゐるのだつたが、今はもう誰もがその事を口にするのを恐れてゐる様だつた

何時間經つたらふ、〃三岔口〃と云ふ聲に劉はハッとして立上つて人々を促すと自分から先に降りて行つた

雲はまだ止まなかつた、驛前のアカシヤの梢がさむ〴〵と青ざめてゐてそれに碎れた雪が雫になつてぽた〳〵と落ちてゐた

「良く降るなー」若いだけに高は元氣だつた

「家に着くまでに大分濡れるぞ」汪は着物の裾を折りながら云つた

「困つたなー」曹の息が雲の中へ白々と消へて行つた

構内には劉達と一緒に乘つて來た苦力の二、三十人の群が頻にざわ〳〵してゐた、今年の一月から着手する事になつてゐる××鐵道工事の爲に流れ込んで來た苦力達だつた

劉は停車場の外れの木材小屋の近くに推く積まれた赤錆た鐵片を圍んで、雨合羽を着た四、五人の日本人が雲の中で何か頻りに喚き合つてゐるのをぼんやり眺めてゐたが、やがて一同を促すと降り頻る雲の中を街外れの方へ急ぎ足に消へて行つた

――雲は止んだらしく表は靜かだつた

劉は褐色に燻つた油紙の窓を開けると手を出して戸外の空氣に觸れて見た、呼呼河を渡つて來る北風が切る様な寒さで手を撲つ〃今日もまた寒いな〃と思ふと起きる氣力もなく又煎餅の様な蒲團の中に深々と潜り込んでしまつた

やがて子供が起き出した妻の楊氏が朝の食事の用意か何かゴト〳〵と音させながら狭い部屋を忙しそうに行來してゐた

〃可愛そうな妻よ〃劉は昨日の様子を涙ながらに聞いてゐた妻の哀れな姿が浮び上つて來ると堪へられない苦痛に床を蹴つて起上つた

食事と云つても見る蔭もないものだつた、大根の鹽漬と大豆を入れた粟粥がそれだつた、初めは嫌がつて食べなかつた子供達も今では餓鬼の様に武者振り付くのだつた、楊氏は大根を口の中で細かに嚙んで女の子に含ませてゐた、九才の子はもう三度目の碗を出した、楊氏は一寸釜の中を覗いてゐたがやがてにつこり笑つて注いでやつた、昨年まではこんな惨めな事は一度も無かつたのに今年は北滿一帯の旱魃に作物の殆どが實のらなかつた爲め妻にまでこんな悲しい思ひをさせねばならぬのだ、それに今年は俺達にとつては大事な土地まで買上げられてしまつて來年からはどうなるだらう、劉は溢れ落ちそうになる涙をぢつと堪へてゐた

「錢は幾ら餘る?」劉は子供に聞えない様にそつと妻に云つた

「六十圓程餘るがもう粟もないし鹽が切れたので――もう地税を納める必要はなくなつたが……」一ケ月分の粟を買ひ鹽でも買へば四十圓とは餘らないのだ、六百圓餘の金がたつた四十圓足らずになるのか、この一ケ月が經つたら一家はどうなるのだ、楊氏は悲しげに眼をふせてゐたがそれつきり何も云はなかつた

(以下二回に續く)

ラヂオ

けふの番組

〔M・T・C・Y〕新京放送局 一日（土曜日）

◇四方拜

朝

八、〇〇 戰捷初詣（大連）＝旅順白玉山山頂より中繼＝
八、二〇 ニュース（新京）入港船のお知らせ（大連）氣象通報（新京）
八、三〇 合唱（日本國々歌、年の始め）新京混聲合唱團
八、四〇 年頭の辭 滿洲電信電話株式會社總裁 廣瀬壽助
八、五〇 年頭の辭 參議府議長 橋本虎之助
一〇、〇〇 年賀挨拶（廣告）
一〇、二〇 謠曲（東京）勅題神苑の朝 外一曲 觀世左近
一一、〇〇 尺八（一）獨奏 森本壽童 イ、新本曲征途にすゝる（上田芳憧作曲）ロ、新本曲銃後の護り（上田芳憧作曲）（二）合奏 イ、歡喜（一部）秋元隆山（二部）山本繞山（三部）平井恭山 ロ、寒砧（本手）秋元隆山（替手）山本繞山
一一、五九 時報（東京）

晝

〇、三〇 ニュース（東京）
一、〇〇 萬才（東京）御殿萬才、三曲萬才 北川幸太郎
一、二〇 新日本音樂（東京）神苑の朝 宮城道雄謠曲外一曲 宮城道雄、同社中
一、四五 戰捷大神樂（東京）丸一小仙鐘
二、一〇（大阪）初夢 國民使節（山本良三作）深見泰三、渡邊はま子、大阪放送合唱團、大阪ラヂオオーケストラ、指揮服部良一（名古屋）一、名古屋城 二、東山公園
二、五五 長唄（初子の日）唄 岡安喜代登幾、同永井秀子 三味線 岡安喜代枝、同岡安喜代八重
四、〇〇 ニュース（東京）ニュース・氣象通報（新京）

夜

六、〇〇 子供の時間（東京）連續童話劇 大日本帝國萬歲（一）第一夜―子供ながらも―東京放送童話劇協會
六、三〇 特別講演 新春を迎へて 關東軍參謀長 東條
七、〇〇 ニュース（東京）告知事項・番組豫告（新京）
七、三〇 詩吟（熊本）明治天皇御製 新らしき年の便りに 外五首 大麻博之
七、四〇 長唄（東京）操三番叟 唄 松永和風、外 囃子連中 三味線 杵屋彌太郎、外
八、〇五 舞台劇（東京）鎌引 松本幸四郎 外
八、五〇 管絃樂（東京）長唄交響曲 鶴龜 外一曲、日本放送交響樂團、指揮 山田耕作
九、二九 時報・ニュース（東京）氣象通報・告知事項・番組豫告（新京）
一〇、二〇 ニュース再放送
一〇、三〇 北滿の時間（哈爾濱）

二日のプロ

朝

八、〇〇 鶯の初音（東京）
八、三〇 ニュース（新京）入港船のお知らせ（大連）氣象通報（新京）
九、三〇 子供の時間（東京）行進曲 勝利の父 東京放送管絃樂團、指揮 稻田宗吉
一〇、〇〇 講演 新京總領事代理 柴崎白尾
一〇、三〇 新春吟詠名歌選（大阪）川田順
一一、五九 時報（東京）

晝

〇、三〇 ニュース（東京）
一、〇〇 三曲 筝 石瀬（若榮）雅之、三絃 河崎雅榮、尺八 井上耕童、（長唄）吾妻八景 唄 稀音家和桃世、同杵屋十吉、三味線 杵屋勢七郎、同杵屋十松
一、二〇 漫談（東京）初夢 柳家金語樓
二、〇〇 講談（東京）三方目出鯛 大島伯鶴
四、〇〇 ニュース（東京）氣象通報

夜

六、〇〇 子供の時間（東京）連續童話劇 大日本帝國萬歲（二）第二夜 女ながらも 笹本寅作 東京放送童話劇協會
六、三〇 講演（大連）寅に因んだ芝居の話 井田潑三
七、〇〇 ニュース（東京）告知事項・番組豫告
七、三〇 合唱（東京）愛國行進曲、內閣情報部選 AK文藝部編輯外二曲 大日本聯合合唱團、東京放送管絃樂團
七、四〇 落語（東京）かつぎや 三遊亭圓生
八、〇〇 浪花節（東京）
八、四〇 萬才（大阪）勝鬨揚がる春 村田五郎、柳屋雪江
九、〇〇 常磐津（東京）花舞台霞の猿曳（うつぼ）淨瑠璃 常磐津松尾太夫外二名、三味線 常磐津文字兵衛外二名
九、二九 時報・ニュース（東京）氣象通報・告知事項・番組豫告（新京）
一〇、二〇 ニュース再放送
一〇、三〇 北滿の時間（哈爾濱）

――眼に映ずるもの、總てが眞白だつた、東の方の空が微かに青ばんでゐるだけであとは一面灰色の幃に覆れてゐて野呀河の向ふの山の中腹まで深い霧が垂れ下つてゐた

劉は大きな足跡を殘しながら深く積つた雪を踏んで默々と歩いてゐた、ふと昨夜の有樣を思ひ浮べた、〃なあに大丈夫だ〃心配げに飛込んで來た彼等の前では氣安に引受けたものゝ内心は彼等以上に不安だつた

〃だがいづれにしても俺達は此處には永く居られねえ體だ皆そのつもりで用意してゐなければならねえよ永くて二ケ月だ〃

〃永くて二ケ月――〃と悲しげに云つたのは曹だつた、誰しもが同じ事を同じ樣に心配してゐるのだ

――それは一月に始める筈の工事を十二月にならない昨日もう始めたと云ふ事だつた工事が進められゝばそれだけ彼等は早く此處を立退かなければならないのだ

「劉さん頼むよ」人々の悲痛な顔が頭をかすめると「なあに大丈夫だ」劉は事もなげにその不安を押除けるとすた〜と街の方へ急いでゐた

◇……◇

――顔觸れは昨夜と同じだつた

「どうだつた」最初に問ふたのは曹だつた

「それがね……」劉は言ひ難かつた

「やつぱり駄目だつたんだ」人々は皆劉の返事が何であるかを知つた

「やつぱり駄目だつたんだね」陳が怨めしそうに言つた

「うん、駄目だつた、苦力を遊ばせておく譯にはゆかないつて云ふんだ、もう三四十人程入つてゐるらしい――そればかりか二十五六日頃までにはお前達の家の方まで工事が進むからそのつもりで居てくれと云ふんだ、よつぽど頑張つてみたんだがやつぱり相手が門衛ではな――」劉は力無く云ひ終るとぐつと一つ唾を飲み込んだ

『困つた』もう誰も怒る氣力もなかつた

楊氏は默つたまんま火の側で女の子に乳房を含ませてゐた美しかつた彼女も絶えない生活苦の爲めすつかり窶れて今はもう見る影もない女になつてしまつた

何時の間に眼を開たのか九つの子供が不思議そうに人々を見廻してゐたが庭の隅に轉つてゐる馬鈴薯を見付けると袖口で一寸土を落して隱れる樣にしながら口に入れた、劉は默つたまんまぢつとそれを見てゐた

「二十五日と云ふともう三日ばかりしかねえな」

曹は白髮頭を釜の下の方へ歪めながら云つた、「あゝ」陳が微かに答へた

「俺あ鐵が高く賣れると聞いたので今日鍋を賣つた、六十錢で買つてくれたよ、汽車賃だけは有るから二十五日頃になつたら齊々哈爾の兄の處へ行くつもりだ」と高が云つた

「皆んなもう諦めてゐるんだ可愛そうな人達よ」劉は瞼が熱くなつた

「俺あもう一文もねえ、賣る物も何一つねえ」曹が云つた

「曹さん、おめえさんの故郷は河北省だつたな、河北省まで汽車賃幾らあれば良い？」突然俯向き勝になつたまゝ考込んでゐた劉が云つた

「大人二人に子供八人、一番末とその次のはいらねえとして、六十圓はゐる、六十圓――六十圓か……六十圓」。瞬間劉の頭には此の間見た停車場に推く積れてあつた赤錆た鐵片の姿がチラッとかすめた

「鐵は高く賣れる、フフフ――」「よし俺が作る」劉の頭にはそれと知つて色を失つてゐる貪慾な人達に對する小氣味良げな笑が浮んで來るのだつた

「エ？」だが驚いたのは曹よりも楊氏だつた、「貴男」と云ひかけたが莫迦つと目で叱つてゐる夫に氣が付くとそのまゝ默つてしまつた

「ほんたうですか劉さん」曹が疑る樣に、それでも嬉しそうに云つた

「大丈夫だとも」劉は何か知ら誇らしげなものを感じてゐた

――――――。

それは長い間の沈默だつた鉛の世界へ落ちて行く樣な時刻が人々の胸の底に深く深く食ひ込んで行つた、薄暗い部屋の壁は釜の下の火がめら〜と燃上る度に綠色の死人の樣な人々の影を陰慘に浮出してゐた

「別れる前に昨年の正月の樣に皆んなで一處に飲みたいなー」高はどん底の生活にても相變らず元氣だつた

「そうだなー何とかして」――汪が相槌を打つた、だが今の彼等にはその何とかさへも與へられないのだつた

「オイ」劉はぢつと默つたまんま考へてゐたが思ひ切つた樣に妻を呼んだ

〃何ですか〃と云ひかけたが此方を向いてゐる夫の眼が何を意味してゐるかを知つた彼女はいそ〜と子供の遊んでゐる處へ行つて長男の耳に何か私語くと内懷から大切そうにくちやくちやに汚れた一枚の紙幣と少しばかりの白銅貨とを渡した

子供が表へ出て行つた後は又一頻り吹雪が歪んだ雨戸を無氣味に打つてゐた

「陳さんおめえは何處へ行く？」汪が聞いた

「佳木斯の伯父の處へ行くよ」

「ほう、おめえさん佳木斯に伯父があるのか、何をしてゐる？」

「馬車屋さ、馬の金具を打つたり車輪を作つたりしてゐるが伯父も苦しいらしい」

「劉さんは？」高が聞いた

「俺ぁ別に兄弟も親戚もねえが新京に女房の兄が居るのであれだけ其處へやつて俺は何處かへ働きに行こふかと思つてゐるのだ」

人々はそのまゝ默り込んでしまつた、暫くすると雪を被つて白くなつた子供が歸つて來た、手には酒の甕と鹽鮭を一匹ぶらさげて寒そうにハア〜と息をはずませてゐた

楊氏は火を熾すと鮭を焙り出した、子供達は欲しそうにその樣子を眺めてゐた

「さあ出來た、皆もう別れだ今夜は俺が馳走する、うんと飲んでくれ」と云ひながら劉は「さあお前達も何か食へ」と妻や子供達にも云つた

「さあ皆さん、うんゝ飲んで下さい」楊氏は夫の悲しい氣持を充分知つてゐるだけにそれを勵ます樣な口調で云ふのだつた

缺けた盃に眞赤な酒が注がれた、鹽鮭が靑黒い手でむしり取られていつた、子供達は隅の方で鮭の頭をしやぶつてゐた

「ほんとうに長い間だつたなー」劉が感慨深げに云つた

「ほんとうに皆んなに長い間お世話になつたなー」曹が云つたつきり人々は默つたまんまチビリチビリと酒を飲み續けてゐるのだつた

大分醉が廻つてゐるらしかつた

「曹さん何か唄ひなさいよ」汪が云つた

「よし、何か唄ほう」劉は默々と鮭をしやぶつてゐたがそれを鍋の端の方へ捨る樣に置くと云つた

やがて曹の乾枯びた咽喉から唄が轉がり出した

――小蜘蛛會湛雄、作個網兒捉飛蟲、你是蟲他是蟲、你捉飛蟲我不容、一拳打個大窟――

劉はこの歌が悲しい自分達の運命をそのまゝ歌つてゐる樣に思へてならなかつた

人々は默々と聞惚れてゐた違つた透通つた美しい聲だ〜獨言をする時とはまるで不思議な程美しい聲だ、ほそ

――小蜘蛛會湛雄、一拳打個大窟――

そうだ丁度今の俺達の慘めな有樣だ

俺達は一匹の蜘蛛に過ぎなかつたのだ、そしてせつせと張つた蜘蛛の網の樣に俺達は土地を買ひ土地を愛した、蜘蛛は網に依つて蟲を捕へ俺達は俺達が苦心して買つた土地に種を蒔き汗と血とに依つて收穫を得た、俺達の生命は此土地に依つて保たれて來たのだだが俺達の運命はなんと哀れなものだつたらう、それは丁度蜘蛛の絲の樣に……風に揺られ、雨に洗たれ、雪に恐れてゐた蜘蛛の樣に、そして一撃の握拳に依つてばら〜に砕けてゆくその網の樣に……

俺達の運命も今細片の樣に碎れてゆくのだ、土地を買はれ、金をとられ、家を壞され、た俺達に何をしろと云ふのだ俺達も人間だ、善良な百姓だだのに俺達は蛇の樣に嫌はれ南京虫の樣に追れねばならないのだ、何故だ、俺達の何處が悪いのだ――、俺達は只あまりにて無智でありあまりにも無力だつたのだ

見ろ、哀れな人々は眞赤な酒に荒狂つてゐる

「莫迦な、さあ飲んだ飲んだ」劉さんは何を考へてゐる、汪が眞赤になりながら云つた劉は盃を受けながらずつと哀れな仲間を見守つてゐる

悲しい小蜘蛛は、お前達は明日から山東から流れ出るあの哀れた苦力の群の樣に行方も知れない旅に迷ひ出ねばならないのだ

「莫迦な!! 何をくよ〜してゐるのだ、俺達はもう別れるんだ、そして思ひ思ひの道に強く生きるんだ、どんな道に殴られてもどんなに蹴飛ばされても俺達は平氣なんだ、俺達には俺達の道が有るんださあ飲め、飲め今夜は飲み明かすんだ、俺達の爲に 俺達の生命の爲に、乾盃だ乾盃だ!!」劉は狂つた樣に叫ぶとよろめく體で立上りながら高く〜盃を差上げるのだつた。（完）

土曜 舊十一月三十日 癸巳 佛滅 執 柳宿 一日

●一白の人 清新の英氣を養ふ事に當れ福德自ら集まる 戌と亥と申が吉
●二黒の人 心を靜めて一家安泰を圖り神參りによろし 丙と丁と寅が吉
●三碧の人 心忙しき事あるも寬容の態度に美化する運 甲と乙と未が吉
●四綠の人 新春平安の運氣 山氣を出さず堅實第一が吉 甲と申と卯が吉
●五黃の人 身分相應何事も前後を考へて手順よくせよ 丑と丁と丙が吉
●六白の人 心素直に腹立てず一家の和合を圖るが安全 壬と癸と甲が吉
●七赤の人 正直の頭に神宿る言行一致に運を開くべし 巽と庚と辛が吉
●八白の人 先づ健康心身の健全を圖りて前途を考へよ 丙と甲と乙が吉
●九紫の人 喜びに溢るゝ盛運日一年の大計を樹つべし 辰と巳と甲が吉

日曜 舊十二月朔日 甲午 赤口 破 星宿 二日

●一白の人 屠蘇の香に身も心も安く吉慶並び來る吉日 巽と丑と庚が吉
●二黒の人 心の手綱引締めて掛らぬと思はぬ過失あり 壬と癸と丁が吉
●三碧の人 先んずれば人を制す熟慮後は斷行するに吉 未と申と壬が吉
●四綠の人 淸く正しき活動によき實を結ぶ元氣に進め 辰と癸と申が吉
●五黃の人 堅忍持久棒の下の力持となるとも焦る勿れ 寅と子と辛が吉
●六白の人 誘惑を退けて正しい目的に進めば災を免る 丙と丁と未が吉
●七赤の人 停滯して進行し難き運交際は和を主とせよ 戌と亥と甲が吉
●八白の人 心勢の事あるも努力よく運命を開拓し得ん 壬と乾と乙が吉
●九紫の人 順風に帆を揚ぐるが如し新春活動の日なり 甲と乙と丁が吉

謹賀新年

川井電氣株式會社
新京支店
杉田久吉

滿洲林業股份有限公司
新京豐樂路一〇二號
電話二一一九三一番

東亞興業株式會社
新京出張所

煉瓦製造販賣
安東窯業會社
新京事務所
新京富士町二丁目八番地
電話 事務所三—四七二九 工場三—五五九七 自動車部三—六三二二

大興股份有限公司
總公司　新京特別市大同大街二〇二號
分公司　奉天、新京、吉林、哈爾濱
營業店　國內重要地點一百八十八箇處

公債株式現物問屋
畑園太商店
新京中央通り廿一番地
電話(3)長二三四九番 六一一六五番

社團法人滿洲鑛業協會
新京興安大路五二四號
電話(2)一三六三番
長春奉天二一二三三番

㊅
大丸樂器店
新京曙町二丁目三一
電話(3)二一〇四番
支店佳木斯

三菱商事株式會社
新京支店
新京特別市大同大街三〇一號康德會館

新京曙町四ノ九
銅版、凸版
北澤寫眞製版所
電話(3)四一二四番

劍崎洋行
新京支店
新京特別市豐樂路一二六
電話(2)二六六〇番

磯野農具新京支店
新京特別市大經路一九〇號
電話長(2)二五四五番

新京洋服商組合

朝鮮商工株式會社
新京出張所
新京中央通一三
電話(3)五六〇五番 六〇〇七二番

國產タクシー
新京特別市永春路
電話(2)二六〇二番

新京賽馬俱樂部

滿洲瓦斯株式會社
新京支店

滿洲パルプ工業股份有限公司
新京錦町三丁目一番地
電話(3)四九七五番

大德不動產股份有限公司
新京特別市大同大街

合名會社近澤洋行
新京五條通二番地
電話(3)二一七二番

高級清酒 日本晴 一福鶴 釀造元
石川酒造本店
電話(3)三七五三番 四八七〇番

本年も相變らず御愛顧願上ます
元日は休業
二日より營業致します
吉野町
明治製菓賣店

日東製粉股份有限公司
新京住吉町三丁目二番地

新京市場株式會社

日本タイプライター株式會社
新京出張所
新京朝日通り八十一
電話(3)三三三八番

新京煤油批發股份有限公司
新京石油販賣組合

東亞煙草株式會社
新京出張所

新京製氷所
住吉町九丁目四番地
電話(3)三八三五番

大連製氷株式會社
新京出張所
新京吉野町六丁目三番地
電話長(3)二七八六番

百貨店
金泰

新京藥業組合

三和洋行
新京日本橋通五五
瀧本　洌

無限製材株式會社
新京出張所
新京住吉町一丁目十六番地
電話(3)二六〇三

品川洋行新京支店
日本橋通五九

日滿商事株式會社
新京支店

新京土產品商組合

合名會社金龍洋行
新京永樂町一丁目二番地

東京無線新京支店
新京祝町二丁目

滿洲醬油合資會社

新京特別市質屋營業組合

株式會社戶田組新京出張所
新京永樂町二丁目拾四番地
電話(3)二六八七番 三七七〇番

福井高梨組
新京朝日通り七十七番地
電話(3)二〇六八番 四〇六八番

新京土木建築材料商組合

三田組
新京出張所
新京宮町三丁目一番地
電話長(3)二四六五番

社團法人滿洲土木建築業協會
新京分會
新京八島通り三四番地

帝國海上火災保險株式會社
新京支店
新京祝町二ノ二
青陽ビル
電話長(3)二二二三番

日本生命保險株式會社新京出張所
所長　安池重威

日本生命
國都代理店
新京祝町青陽ビル
電話(3)五六三〇番

落語 春の芝居

三遊亭圓遊

只今では演劇は大分向上いたしまして昔とは違ひますが、然し今日も交通不便の田舍に參りますと不思議な芝居が見られます。又昔は初春になるとそのお話に芝居などをお百姓衆がなさいますが、陽に燒けて黒くなつた顔に白粉をつけ狂言をするのですから、演る當人は大喜び、これは肥前天草のお話でございますが、長崎へ興行に來る役者を雇ひましてそれを座頭、只今で申すと大幹部兼振着に致します、座頭が來たと言ふので村中が與つて出し物の相談を致します。「エー御苦勞様でございます、何うかハア玆に居ります者は不器用者ベエでございます、宜しき所の狂言をお考へを願えてえでございます」「左様でございますか、お話を承まはりますれば春のお芝居ださうでございます、何うもこのむづかしい狂言は二三日の稽古では出來ません、何か皆さんのお腹に在る事だと稽古が早いのでございます、假名手本忠臣藏と言ふのは皆さんも御存じでせう、如何でございます、忠臣藏では…」「忠臣藏、宜かッペエ」「忠臣藏ならば皆さんも御存じだから是は譯のない事です」「夫ぢやアハア、忠臣藏に極めてお貰ひ申してえでございます」「夫では私が座頭兼帶でございますから由良之助と師直の二役を勤めます、其他の役は皆さんの方へ割渡す事に致します」「イヤ夫ぢや俺が判官を演べエ」「俺も判官を演べエ」「俺は勘平を演べエ」と言ふので判官が二十六人に勘平が二十八人出來てしまつた。是では到底芝居は出來ません。是から鬮に當つた者は役不足を言ひッこなしと言ふので、鬮取りに致しましたすると漸々稽古が出來上つて開演當日となりました。舞臺と言つた處が鎮守様の森の中へ小屋掛で好い加減に拵へまして、村中の風呂敷を集めて之を綴合せたのを幕にするやうな譯で、近郷近在の見物人は振つて出て參ります「エー座頭様へチョックラお目にかゝりてえでございます」「ハイ何でございます」「私は今度五段目の猪が當りました、就きまして今日手前どもの親類どもが見物がてら參りまして、これ田吾十汝は今度ア何をするだと言はれ、五段目の猪を演でございますたら親類が意外立腹しましてね、何うも是人間たるべきものが四ツ足の眞似エするチウは親類の顔に拘はるだア、以來親類の交際するチウは出來ねえと言はれやした、夫故ハア俺は今日猪は勤りませんでございます就きましては玆へ伴れて來ましたは村の日雇取でございますが是を頼みましてございますが、何うかマア猪の處は此男にやらせて頂きてえでございます」「ハイ宜しうございます、五段目の猪は科白があると言ふ譯ぢやアない、又立廻りのあるわけでもなし、夫ぢあア何かへ、お前さんが猪をお演り下さるかへ」「ハイ俺が致す事にして參りましたが、猪の部屋は何處でございます」「冗談言つちやアいけない、猪に部屋なぞはありはしねえ……で大體お前さんも心得てお在りなさるだらうが衣裳はね、襲で猪の頭が出來て居る、之を裸體で冠つてそしてそのヒウーテレックテンと言ふ鳴物で、上手から出て下手へ行つて然うして下手へ引込むのだ、只夫だけの事なんだ」「ハア、ぢやア夫を冠りましてテレックテレックで出て走出すのでございますか」「然うでございますよ」「ハア、ハイ」「オイ今出ちやア早いよ、未だ大序も明かねえ内から飛出しては不可ないお前の出る場面までは却々間があるよ、何うも何所かへ行かれてしまつちやア困る、其猪の頭を持つて向ふに小道具部屋があるから彼處へ行つて寝てお在なさい、出る時は私の方で呼ぶから……」「夫ぢやア、ハア出ます時に呼ばつて頂き度うございます」「ぢやアねえ、猪々と言つたら夫を冠つて出なければ不可ないよ」「畏りました、夫ぢやア何卒猪と呼びなすつて頂き度うございます」其内に大序が開くといふ事になりました。大序の幕開きは何れも紋切形で片シャギリで人形の口上が出まして大序から十二段目までの長口上濟む、木頭なしで幕が開きます。正面淺黄幕佳肴ありと雖も食さゞれば其味合を知らず、國治つて善き武士の、忠も武勇も隱るゝはたとへば星の晝見えず、夜は亂れて現はるゝためしを、玆に假名書の……と淨瑠璃が濟む、テンと言ふ太皷の頭で淺黄幕がパラリと落ちます。正面に足利忠義公左り一段高い所へ筆頭の高師直、御馳走役と致し、鹽谷判官高定、桃井若狹之助、其他並大名と言ふので幕が極ります。追々科白が進んで參りまして、獅々師直の科白になると言ふと、師直の冠つて居りました烏帽子を裏の松の木へぶら下げて置いたが、いつかこの中に蜂が二匹入つてゐた、夫を知らないで師直が冠り込んだ「新田は清和の末なりとて……チクチクチ（蜂が刺す）アッ痛い……着せし兜尊敬あらば……チクリ……アッ痛い……御旗本の大小名……チクリ、アッ痛い……淸和源氏は幾らもごゐる……チクリ／＼……アッ痛い」師直堪りませんから、持つて居りました中啓で烏帽子を後へポンと刎ねる、大きな蜂がブーンと飛び出しました見る／＼内に師直の頭が腫れ上りました。見物は之を見て驚きまして「何と見なせえ市川團富久呂と言ふ役者は名人でねえか、エ、師直と福助と早替りだ」…馬鹿々々しいお話でございます。偖第二段目も濟んで三段目も濟み彌々四段目と來ました。此幕は判官の持場でございます、幕が開きます、とカラと言ふ義太夫の三味線で只デン／＼とあしらつて居ります、寂とした幕でございます、若い者は皆諸士になつて居りますので、かみしもを突ばつてまごまごして居りまする。「オイ茂十郎、何うだ未だ出るのは早いかの…」「早かんべエで、何でも座頭樣の言つたには國元から大星由良之助チウ、由良之助を出して夫に續いて諸士の面々チウ處へ出るのだ」「大分間がありさうだな、汝腹は空ねえか」「腹は空たで、俺ら處からべんとう持つて來るわけだけんど、客人が來て居ると見えて、未だべんとうを持つて來ねえが豪く腹が空つた」「小屋の外に大分商人が出て居るが、油揚飯でも喰つて來べエ……諸士がドン／＼小屋の外へ出て稻荷鮨を喰べて居ります、其裡にキッカケが參りました。夫に續いて諸士の面々……といつた所が、諸士が一人も居ないから「諸士は何うした。何うも諸士が出なければならない、諸士々々…」と呼ぶと、之を猪々と間違へて、小道具部屋に居りました猪が突然襲を頭を冠つて舞臺へ飛出して、判官を踏倒して上手へ引込みました見物が驚いて「魂消ました五段目に猪が出るのは見たが四段目に猪の出るなんと言ふのは見たことがねえ」「默んなせえ、四段目だからッチウて猪の出ねえチウ事は無えだ」「何だつて四段目に猪が出るだよ」「能く考へて見なせエあれは判官樣の御領分の猪がこの世のお暇乞に出たのだらう」（をはり）

お正月映畫

帝都キネマ

▽第一週＝東寶時代「でかんしよ侍」大河内傳次郎、小林重四郎、高瀬實乘、鳥羽陽之助を相手に共演する大谷俊夫の監督作品、昨年正月日活〝傳次郎が主演した「怪盜白頭巾」以上にとぼけたものらしく大いに笑はせやうといふ趣向▲同現代「母の曲前篇」「同後篇」入江たか子、原節子の三大スター顔合せの他に英百合子が母の役を勤めるといふお涙ものゝ山本薩夫の演出になる

▽第二週＝東寶現代「母の曲後篇」▲佛メトローパ「戀愛交叉點」どうやら馴染みも増えたダニエル・ダリユウがアルベル・プレジャンと共演するといふ甚だ期待に値ひする作品、ダリユウの鼻を鳴らしかねない風情がプレジャン相手にどんな戀愛の交叉を演ずるか、レオジョアノン監督作品

▽第三週＝東寶時代「エノケンの猿飛佐助」佛パテナタン「港の掠奪者」

銀座キネマ

▽第一週＝新興時代「旗本傳法前篇龍の巻」市川右太衛門と鈴木澄子の主演する新興昨年度の大作、大衆小說で有名な田沼意次の專横と、これに挑む正義の士祖父江の活躍に絡んで妖艶純情の美女達が綾なす大衆篇鈴木澄子、歌川絹枝、志賀靖郎、淺香新八郎、松本泰輔等の助演、牛原虛彦の監督作品▼新興現代「白き手の人々」高野由美、眞山くみ子、大内弘、菅井一郎主演、吉屋信子原作の戀愛もの、西鐵平の監督作品

▽第二週＝新興時代「旗本傳法後編虎の巻」スタッフキャスト前篇同樣▼新興現代「呼子鳥娘時代」加藤武雄原作大衆小說の映畫化新興お得意のお涙頂戴映畫曾根千晴の監督により河津清三郎、平井岐代子、浦邊粂子、淡島みどり主演

▽第三週＝新興現代「鐵拳涙あり」同時代「足輕大名」二番館は三十一日初日に三日目毎に寫眞替り、[illegible]の通りの番組である

豐樂劇場

▽第一週＝松竹大船「人妻椿大會」とアトラクションにレヴューが加はる

▽第二週＝松竹京都「踊る名君」同大船「花籠の歌」

▽第三週＝松竹大船「お笑美の評判」同京都「かごや判官」

朝日座

▽第一週＝日活千惠藏映畫「松五郎亂れ星」同多摩川「ジャズ忠臣藏」

▽第二週＝日活京都「妻戀道中」同多摩川「女よ男を裁け」

▽第三週＝日活多摩川「日月と共に」東寶今井「鼠小僧初陣」

劇と音樂

△演劇 演劇の社會に及ぼす影響に就て茲に云々するまでもないがその重大性に鑑み國都新京に於る演劇研究諸團體即ち滿洲國演劇研究會、銀星劇團（滿人）新劇研究會（滿人）その他藤川研一氏のグループは自發的に發展的解消をとげ、一體となつて大同劇團を組織結成した。これに對して政府ならびに關係各機關も亦積極的に後援し、その第一回公演會を昨年八月下旬開催し非常な好成績をあげた。無言劇の演出に基礎を置いた日滿兩語劇（日滿人混合出演）の構成は、將に演劇史上劃期的な試みといはなければならないが、然も結果は好評を博して注目を惹いた。脚本には文教部の懸賞文藝當選作品「王屬官」（牛島春子原作）を選び、新京七日會の人々の調査研究と藤川研一氏の脚色並に演出で土星會の人々が舞臺裝置に當り、新京混聲合唱團の特別援助出演があつた。同時に滿語劇としては板垣守正氏原作、寵柳光氏飜譯の「建國史斷片」を同じく藤川研一氏演出で上演したがこれも好評を博した。かくて大同劇團更には政府においても演劇に關する數次の研究座談會を開催する等、滿洲演劇の創造に向つて積極的な研究に拍車がかけられるに至つた。滿人に關する限りこの新劇の公演は大同劇團の公演をもつて前後僅かに三回目に當るが、その第一回の國都劇場における公演の席上（當時銀星劇團同人上演）つぎの如きエピソードを殘しその如何に影響するところ大なるかを立證し識者の關心をそゝつた。即ち從來支那劇においては舞臺に於て死す（假死）といふことは絶對にない習慣を破つて、バタバタと倒れた（假死）新劇の演出を見て場内の觀衆は一齊に立ちあがり、死ぬ、死なぬと議論高まり暫時騷然となつたのであるが、かゝる事象よりして新劇の民衆に及ぼすところは計り知れざるものがあり大同劇團の將來には非常な期待がかけられてゐる。その他大連では大連藝術座結成一周年を迎へ記念公演として「伯父ワーニャ」が上演され、絲山貞家氏等の熱心な努力が續けられてをり、奉天にも第一劇團が結成され、同じく公演會を持ち、ラヂオ放送にその他の催しに活潑な活動を見せ滿洲新劇運動のスタートを切つた感を呈するに至つた。

△音樂 個々分散的だつた在滿各音樂團體も、新たに政府補助に依る新京音樂協會が成立するに至り俄然活氣づいて來た。同協會の指導者としては元東京音樂學校講師と東都樂壇の權威者大塚淳氏が既に就任し管絃樂部始め吹奏樂部、合奏部、合唱團部等を網羅し、目下猛練習をはじめてゐるが、これが將來は滿洲樂壇に一新紀元を劃すると同時に面目を一新し、愈よ本格的な滿洲樂團の發展が約束されるものと各方面から期待されてゐる。從來の音樂團としては大連、奉天、撫順方面では高津敏氏がブラスバンドを組織して定期演奏會に涙ぐましい努力を續け、哈爾濱には白系露人の組織する哈爾濱交響管絃樂團が其歷史と傳統を誇つて猛烈な練習をなし全滿に演奏行脚を開催する等、新京には昭和十年度より市民管絃樂團が組織され（現在市民音樂會）酒井兼雄氏が熱心なる精進に當りさらに加藤哲之助が滿鐵の囑託として各特殊會社、學校等グラスバンドを組織、昨年度においては新京混聲合唱團が誕生し、細田透氏を指導者として發表會を開催する等何れも眞劍な態度で斯界向上のために盡力して來たのであるが、こゝにこれ等の諸團體と緊密な連絡のもとに、新京音樂協會が成立したことは何んといつても昨年度の大きな業績と云はなければならない。然して、逐次滿洲音樂の新作も發表されはじめて來たが、未だ大作なく一にて今後の努力に期待がかけられてゐる。なほ哈爾濱交響樂團は昨年末市民忘年藝術大會に來京、ギミドフ氏指揮の下に演奏、次で新京音樂協會では十二月二十二日大塚淳氏指揮の下に第一回發表演奏會を開催し、清瀬保二作曲、組曲「黎明」を演奏し、盛會裡に昨年掉尾の音樂納會として深い感銘を與へた。

新京日日新聞 其の四

ユーモア小說 あさつて寫眞

伊馬鵜平

（一）

―紺屋のあさつてといふ昔からの諺があるが、カメラ百年祭もすでに取り行はれた今日に於てはよろしく―寫眞屋のあさつてと改稱すべきである!

私はじつさい怒つてゐるのである!

近所の小さな寫眞機材料店に頼んだ現象燒付が一週間の餘も經つてゐるといふのに、まだ出來てゐないのだ!

「いつたい何日になつたら出來るんだい!」

「は、どうもすみません」

「すまないのは分つてる!はつきりしてくれ!僕はこのうへ馬鹿にされたくないからな!」

「いえ、決してそんな積りで遲らしたのでは……」

「又そんな積りで居られてたまるかい!言葉に氣をつけろい!馬鹿野郎!」

誤解して貰つては困るが、私は決して、つねづね商賣人を前にこんな亂暴な口をきいてゐるのではない。相手が不誠實であれば、行きがかり上こつちも紳士的態度を放棄せざるを得なくなるのである。

この寫眞屋に對しても、始め私はきはめて鄭重であつたのである。

「これを一つねがひます。友達のカメラを借りて初めてやつて見たんだから、あまりよくは寫つてないと思ふけれどとにかく一枚づゝ燒いて見てくれませんか」

と私は、周圍に掲げられた上出來の見本寫眞や、程よい露出であることがネガを見てさへ快い、何本か下つてゐるフイルムに視線を馳せながら幾分ひけめを感じつゝ遠慮がちにさへ言つたのである。

「は、承知しました!」

と彼は軍隊式な應對をしてさういふ客には馴れてゐるといつた態度で、私から一本のロール・フイルムを受けとつた。

「何日頃できませうか?」

「さうですね。……明後日の夕方、いらしていたゞきませうか」

「ぢや、よろしく……」

と私は歸つて行つたが、始めての撮影がどんな結果を現はしてゐるだらうと思ふと、もう心は躍らんばかりで、私は明後日の夕方になるのを待ちかねて出かけて行つた。

「やあ、すみません。實はまだ出來てないんでございますがね……」

寫眞屋は、甚しく私を失望させた。私は一刻も早く結果を知りたかつたので、せめてフイルムだけでも見たいと言ふと、何といふことであらう、まだフイルムの現象さへ出來てゐないといふ始末である。

「何しろ、こゝのところ日曜と祭日と續きましたもんで、とても混んでをりますので……明後日またいらしていたゞけませんでせうか?」

「ぢや仕樣がない。その代り今度は間違ひなく燒付も頼みますよ」

「は!それはもう、必ず間違ひなく……」

と例によつて返事だけは軍隊式であつた。

ところがその明後日、又しても私は落膽させられたのである。もつとも現象だけは出來てゐたが、燒付がまだだと言ふのである。

「何しろ全部……露出不足でしてね、これには特別の印畫紙でないとうまく出來ませんでして……それが丁度品切れなんでして……今日の夕方には問屋が屆けて呉れることになつてますんですが……」

と彼は、ぶら下げてある一本のフイルムを外して

「御らん下さいまし、この通りなんですからはゝゝ」

それは見るも無慘なネガであつた。撮影者の私でさへそれが誰だか判斷に苦しむ程の煙幕のやうなものが、ぼうつとしたゞけのひどいシロモノだつた。現物を突きつけられては苦笑するより外はない。

私はてれながら、今度はいつだと訊いた。すると彼は答へたものである。

「は!ぢや明後日の……さうですね、やつぱり夕方に…」

―その今度の明後日の夕方に私は憤慨の極に達し、先に書く如き、決然として紳士的態度を放棄するの止むなきに至つたのである!

「すみません。まだ問屋が屆けて呉れませんもので……」

と寫眞屋は、口でだけ恐縮の意を表してゐるが、どうもその顏つきは、こんな出來損ひの寫眞など可笑しくつて氣乘りできるかい、といつた態度をあからさまに示し、あまつさへ、始めて寫眞機を手にした私の昂奮のしぶりを輕蔑するかのやうに嘲笑をさへ浮べてゐるやうに思はれるのである。

馬鹿野郎!と私がむしやくしやして怒鳴つたとて、讀者諸氏よ、諒として下さるだらう。

（二）

その後いろいろ工面して、私は中古ながら或る優秀(?)なるカメラを手に入れた。それから盛んにパチパチ寫し、この頃では大ぶん腕をあげ煙幕寫眞など見ようとては見られないが、フイルム代だけでもしかし、相當の額にのぼつてゐる。あれ以後いつさい寄りつかないことにしてゐるのである。少し遠いが別の所で現象も引伸しも頼みその寫眞屋を盛んに儲けさせてゐるのである。

ところが或る日、至急にフイルムが入要になつて、止むを得ず妹を走らせたことがあつた。

すると寫眞屋が言つたさうである。

「お兄さんはやつぱりやつていらつしやつたんですか?」

「えゝ……」

と答へたものゝ、妹は他の寫眞屋に頼んでゐるとゝ言つては惡いと思つて

「この頃は、現象も燒付も家で始めてるんですの……」

と言ふと

「えへ、そりや、ちようど、寫眞が面白くつてたまらないといふ時分ですね!それぢや今は猫も杓子も手當り次第、なんでも寫しまはつていらつしやるんでせう、はゝゝ」

と笑つたといふのである。

畜生め!と私はまたぞろ憤慨したが、ついこなひだ、この寫眞屋とばつたと出くはしたものである。

それは郵便局で、私が速達を出しに行くと彼がちようど貯金通帳に廿圓そへて差出してゐるところであつた。私はちよつと口惜しかつた。この非常時に悠々と貯金をしてゐる男、しかもそれがあの寫眞屋とは……

しかし私はぽんと彼の肩を叩いて

「なかなか、勤儉貯蓄の精神に富んでますなあ!」

とひやかしたつもりで言つた。と彼は眞面目な表情で

「は!………」

と答へたと思ふと、通帳を受取るなり、そそくさと出て行つてしまつた。私は呆氣にとられながら、通帳の表面に杉井六郎と書かれてあつたのを見て、始めて彼の名を知りさういへば杉井寫眞機材料店といふ看板が上つてゐたなどゝ考へてゐた。

（三）

それから二、三日してゞある。町内の應召者掲示板に、杉井六郎といふ名が書かれてゐたのは!

「おやッ、こりや寫眞屋ぢやないか!」

私は何氣なく通り過ぎやうとして、思はず掲示板に吸ひ寄せられた。

「あの男……兵隊さんだつたのか!」

なる程さういへば、あの、「は!……」といふ應對のしぶりは確かに兵隊さんの名殘りであると、私は半紙に書かれた數人の應召者の姓名にまじつた杉井六郎といふ文字をしげしげと眺めた。

―郵便局でのあの固い表情は、いつ應召されるか知れないと、覺悟をきめてゐたあまりの結果だつたのだらう……

私は深く心を打たれ、直ぐにでも寫眞屋に飛んで行きたい衝動にさへ驅られた。しかし向ふはどうともあれ、私の方では反目して來た間柄だけに、それも何だか變である。

「明朝午前十時自宅出發か……」

よし……と私は、町内の人々に混つて、せめて驛まで見送りに行つてやらうと決心した。

（四）

―天に代りて不義を討つウ……

驛の方から勇しい合唱が聽えて來たので私は愛用のカメラを提げるなり飛行して行つた。寫眞屋は、商工會員や防護團や在鄕軍人會、國防婦人會、愛國婦人會連の整列を前にして家族親戚に取り卷かれなかなか勇しげであつた。そして頭をイガ栗にしたゝめか長い顏がいつさう長く見え、それがまた却つて彼を勇士らしく裝はせてゐた。

合唱が終つた頃、貸切りの靑バスが二臺到着した。すると在鄕軍人會長でもあらう年寄りの將校が一歩前に出て

―杉井六郎君、萬ざーい!

と音頭をとつた

―萬歲!ばんざーい!

忽ち大勢の聲がこれに和した私も小さな日の丸を打ち振り萬歲を叫びあげたこと勿論である。

實は何か歡送の辭を……と―私は、よほど彼の前に進み出て、挨拶しようと思つたのであるが、たうとうそのきつかけも見つけ得ずにゐるうち、かれ杉井六郎君はバスの中に乘り込んでしまつたのである。

私は心殘りで仕樣がなく、見送人の一部が二臺のバスに分乘してしまふのをぼんやり眺めてゐると、何と彼が窓からその長顏をにゆつと突き出したではないか。

「おう……」

思はず私はふらふらと窓下に引き寄せられ次の瞬間にはカメラを出して彼を覗つてゐた。

「おや……?」

と彼は私の顏を見下さうとしたが、再び驛頭を壓する歡呼の聲に頭を上げた。

今こそ……と、私は私の歡送の辭を口早やに述べたのである。

「おい寫眞屋くん、出征おめでたう!君の勇士ぶりは確かにキヤツチしたよ。さうだ、明後日には出來るから送つてあげよう!」

が、そのとき早くもバスは動き始めてゐた。果して彼は私の歡送の辭を耳にいれてくれたであらうか。(完)

短篇講談

髯無しの虎

濱田一民

德川中世に、虎を描いて名人と言はれる休甫と云ふ畫家がありました。後浮田家に召抱へられましたが、彼が未だ諸國を遊歷修業中の時代でした大阪を過ぎて某寺に一夜の宿を借りた際、禮心に庫裡の奥の襖へ、得意の虎の圖を描きました。さて、休甫が出立してから繪心ある寺の住持は改めてつくづく襖の繪を眺めましたが、實に非難の打ち所の無い出來榮でした。それにも拘らず全體として何となく物足らぬ節がある。ハテ可笑しいと、小首を傾けるうちに、其の虎には髯が生えて居ない事が見當りました。多分畫家が描き落したのであらうが、御蔭で折角の虎も、甚しく威を缺いて見えるのでした。住持は誠に殘念と思ひましたが今更致し方はありません。他日又休甫が來遊する事もあらうから、その節書き添へて貰はうと心待ちにして居りました。果せる哉、半月後に京都遊覽を了へた休甫は、又飄然と大阪に立戻つて、その寺を訪れました。住持は雀躍して迎へながら、髯無し虎のことを告げました。流石に休甫も苦笑しながら「夫は氣の毒なことを致した、ついうつかり書き落した物と見えます。―よろしい。如何にか致しませう」直に筆硯を用意すると虎の繪に對しました。つくづく眺めると、成程髯が無い。然し何を思つてか漸くニツコリして筆をとりながら虎の足下に小さな鼠を描きました「之で宜しう御座らう」相變ず虎の面には一本の髯も無いので怪訝な顏をした和尙は、そのうちに思ひ當つてハタと膝を打ちながら「あゝ結構、誠に立派な虎が出來ました。忝け無い」非常に悅んで禮を述べました。畫家として、一旦描き上げた虎には手を付け無いで、巧みに畫面を取り繕つた所に、休甫の矜持と畫才とが躍動して居るではありませんか。彼は果して後年名を擧げ亦其の髯無し虎も有名な物となつて永く寺寶として保存されたとの事であります。(完)

川柳

元旦

元旦を坐り疲れる女親

元旦の日記へ希望書き切れず

屠蘇

女房もお屠蘇に一寸つとあらたまり

バッサリと第一便は屠蘇へ來る

松の内

吉と出た御籤もはしやぐ松の内

新しい下駄ばかりなり松の内

謹賀新年

謹賀新年

律士 辨理士 小西晉一 新京西七馬路第一朝日ビル 電話(3)三八八三番

辯護士 辨理士 黑田實 新京朝日通り三十三 電話(3)五四四九番

前判事 辯護士 引地寅治郎 新京朝日通五十九番地 電話(3)五九五〇番

辯護士 律師 別役増吉 新京朝日通り二十五 電話(3)二八八五番

石井亥之吉 新京中央通一五 金華寮

新京建材社 加來富勇雄

新京新發路交通ビル泰東洋行新京出張所 田中知平 電話(2)五四二六番 二二二〇番

新京木材工作公司 藤岡織太郎

金物商 西脇洋行 新宅啓三 新京三笠町二丁目 電話(3)二二四〇番

關東軍指定製作者 北滿洋行 主 上川廣三郎 新京特別市大經路十六號 深町病院前 電話(2)二七九六番

新京輸入組合 理事 石井保吉

新京取引所信託株式會社 專務取締役 山下善代

新京銀座新道 丸福果實店 電話(3)六三二六番

日本毛織株式會社 ニッケ、ギャラリー 新京大同大街二二三 電話(2)二九一六番

松龍洋行 新京老松町十八 電話(3)二二五八番 四八八三番

北原紙店

株式會社 大信洋行新京支店 日本橋通八三 電話(3)二五二三番 五九五五番

新京驛區長一同

合資會社 阿川組 日本橋通り一六 電話長三一二〇六番 三一三二〇五番

滿鐵新京醫院

福信金融株式會社

合名會社 森洋行 新京中央通

北滿洲金鑛株式會社

牧瀬商店 新京羽衣町一〇 電話(三)六一二七番

寫眞機專門店 木村洋行 新京中央通り三六 電話(三)三三四六番

新京新發路一〇五號 萱沼タイプライター 滿洲直賣所 電話長(二)四四五二番 四四五三番

株式會社 滿洲鑛業社 八島通四十四番地 電話長(三)六四四七番

新京綿糸布商組合

銘酒富貴長 森川新京支店 驛町二丁目二十三番地 電話(三)三八〇八番

三友社印刷所 新京永樂町三丁目二六 電話(3)三四三八番

新京興安大路(興安病院前) 小西寫眞館

新京興安大路四一四 大一証券 電話(2)三一六五番 三〇四番 五七二六番

和洋百貨店 赤木洋行 新京三笠町三丁目 電話(3)二二七三番 六九三番 振替口座大連三〇九番

新京西五馬路八號 松田テント商行 電話(2)一五八七番

菓子と喫茶 フジヤ 吉野町二丁目 電話(3)二〇七二

新京朝日通り八ノ二 株式會社 滿洲飛島組 電話(3)四七五四番 二一一八番

新京中央通三六 遠藤洋行 電話(3)六七四九番

新京日本橋通り 加藤洋行

新京日本橋通 紙文房具 林洋行

新京祝町一丁目 加藤造花店 電話(3)三一〇八番

丸一公司 新京永樂町三丁目三十一番地 電話(3)三八四三番

新京洗染業組合

首都乘用馬車人力車營業組合 新京東五條通五條橋詰

新京日滿理髪業組合

大阪商船株式會社 大連、奉天、新京、哈爾濱

新京市立醫院 新京特別市自彊街

新京通關運輸組合 新京通關運輸精算株式會社

新京日本橋通り 中谷時計店 電話(3)三八五四番 六七五九番

寶石、貴金屬、時計 岩間商會寶石部 新京中央通り 電話(3)三〇四七番

大熊醫科器械店 新京支店主 清水宗雄 新京興安大路三〇二 電話(2)二二四五番

新京高砂町二丁目 樽寸、軸木 製造販賣 製材業 長春洋火工廠 高砂製材所 電話長(三)三二九番 五四九二番

滿洲國指定石油類專賣批發處 小倉石油株式會社滿洲特約店 大陸公司 新京朝日通二五 電話(3)三四一九番 六四四六番

新京八島小學校前 八島館 電話(3)五二六四番

新京羽衣町二丁目二番地 新京射越屋商店 電話(三)三三五五番

新京曙町三丁目二十番地 長谷川工務所 電話(三)三〇五八番 三七二一番

新京祝町三丁目十一 新京競賣所 電話(3)三五九七番

新京東二條通三 松茂洋行

新京祝町三丁目一五 飯富洋行 電話(3)六六三七番

新京室町二丁目十五 北滿葬儀社 倘華堂造花店 電話(3)三四五三番

三宅牧場 電話(3)二三〇八番 三六七番

上海夜話

甲賀三郎

一

一人では危險ですよと止められてゐたが、和田友雄はほろ醉ひ機嫌でもあつたし、持前の冒險心も手傳つて、通りがかりの馬車を呼び止めて、支那街の酒場に走らせた、午前二時、さしもの上海の町も死のやうに靜かだつた。

馬車は石疊の凸凹道をうねりうねつて、狹苦しい小路の傾きかゝつたやうな家の前に止つた。馭者は怪しげな日本語で云つた。

「この家の下あるよ。」

「いきなり這入つても好いのかい。」

「宜しいある、宜しいある」

友雄は馭者の掌に銀貨を一枚押つけて、外套の前をしつかり合せながら地下室への階段を降りた。足の裏が變に無感覺になつて、恰うど宙を歩いてゐるやうな氣持で、一歩踏み出す毎に不安は募るばかりだつた。騎虎の勢ひで、今更退くことは出來なかつた。

階段を降り切ると、始めて地下室の樣子が分つた。部屋中煙草と阿片の煙で一杯だつた、天井にたつた一つ釣下つてゐる洋燈は、その煙の中でぼんやり光つてゐた。五六脚の卓子では醉潰れた人間が芋蟲のやうにうようよしてゐた何とも云へない異な臭ひがプーンと鼻を打つた、友雄はその臭ひだけで、もう嘔吐を催しさうだつた。

友雄は漸くの事で隅の方に空いた卓子を見つけて、そこへ腰を下した、その卓子に辿りつくまでに、彼はその邊にゴロ〳〵してゐる獰猛な面構への男達からヂロ〳〵と睨みつけられて、壽命を縮めるやうな思ひをした。

「ブランデーを持つて來い。」

友雄は支那人の給仕に饒と大聲で怒鳴つた。一、二杯コップを空にしてゐる間に、彼は少しづゝ落着いて來た。邊りにゐる氣味の惡い男達は、もう彼なんかに興味がないと云ふ風に元通りものうげに動かうともしないで、彼はだんだん大膽になつて來た、彼は逆にヂロヂロとあたりを眺めはじめた。

と、彼は彼の横に卓子を一つ隔てゝ、凄艶な美人がゐるのを發見した。眉毛が濃く黑い所は東洋人のやうだつたが肌の細くすき通るやうに白い所は西洋人としか思へなかつた。殊によると混血兒かも知れない、彼女の膝には、一人の肥つた男が頭を乘せて眠つてゐた。

ふと、友雄の視線が彼女のそれと合つた。

と、彼女は毒々しいやうに紅を塗つた眞紅な唇を一寸曲げて、ニッと笑つた。友雄は面喰つて、あわてゝ眼を外らした。

二日度に視線が合つた時に彼女はあらん限りの媚を友雄に投げかけた。

「踊子かな」

友雄は先刻から大分大膽になつてゐるので、ニッと笑ひ返へして眼で來るやうに合圖をした。

女は膝にたれかゝつてゐる男の頭をそつと外した。男の頭はストンと冷い椅子の上に落ちたが、彼はムニャムニャと口を動かしてそのまゝ眠り續けた。

女は立上つた、さうして孔雀のやうな足どりで友雄の傍に近づいた。

「今晩は、ムシュー」

女はフランス語で挨拶すると、友雄に抱きつかんばかりに沉く席を取つた。さうして友雄のチョッキのポケットから、煙草函をぬきだすと、中から煙草を一本摘み出して、火をつけて、プーと煙を天井にむけて吹き出した。

友雄は軟かい肌の接觸と、鼻を打つ體臭に昂奮しながら少し照れ氣味にブランデーのコップを唇にあてた。

女は早口に何事か喋ると、友雄の手からコップを奪つて彼女の唇にあてゝグッと一呑みに呑み乾して、ヒラリと友雄の膝の上に飛乘つた。

この時に、女の膝を枕に眠つてゐた男が、ヒョッコリ頭をあげた。

と同時に、危ないッーといふ叫び聲がしたが、その途端に誰かゞランプを眼がけて一發射つたと見えて、あたりは忽ち眞暗になつた。アッと思ふ暇もなく友雄の腕は何者かに力强く掴られた。

「早く、早く」

友雄の腕をつかんだ男は耳許でかうさゝやきながら、友雄を出口の所に引摺つた。その途端に轟然と拳銃の音が響いて、友雄のゐた所に彈丸は飛んだ。續いて第二發。

友雄は無中で引摺られて行つた。力强い腕は友雄を階段の上に引上げた。

「早く、早く、逃げ給へ、愚圖々々してゐると危ない。」

「あ、有難う」友雄は叫んだ

「あ、あなたは生命の恩人だ、有難う。」

「早く、早く、走らなければ駄目だ、奴が追驅けて來るかも知れない。」

「一體誰ですか、貴君は…」

「早くし給へつたら、上海虎だよ。」

友雄を連れ出した男は一聲叫ぶと、忽ち階段を降りて、元の地下室に姿を隱して終つた。

友雄は夢中で驅け出した、途中で旨く馬車を捕へることが出來て無事にホテルに歸りついた。ホテルの寢臺に横になりながら、彼は生命拾ひをした事を心から天に感謝した。

二

東京へ歸つてからも、友雄は彼の生命を救けてくれた恩人の事を決して忘れなかつた然し、恩に報ひる方法がないので、つひそのまゝ日を送つてゐた。

或日彼は新聞に次のやうな記事を見出した。

「上海暴力團の顏役で上海虎と恐れられてゐる暴漢は、たうとう仲間の一人を射殺した現行を取押へられた。彼は即日起訴されたが、重刑を免がれないらしく日頃が日頃なので彼の爲に辯護しようとするものがない。」

友雄は上海の友人に即刻電報を打つた。折返へし友人から返電が來たが、それによると上海虎の射殺した相手も有名な無頼漢で、酒の上の決鬪みたいなものであるから、相當の辯護人をつければ、極めて輕く濟むだらう、といふ事だつた。友雄は再び電報を打つて一流の辯護士と辯護料を問合せた。友人は辯護人の名を知らせて來たが、謝禮は千圓といふことであつた。

千圓!!それは友雄にとつてさう生優しい金ではなかつた彼は考へた、然し、上海虎はどんないきさつにもせよ、彼の生命を救つてくれた恩人である。生命の恩人に對して千圓は決して高いとはいへない友雄は決心した。彼は虎の子のやうな貯金のうちから千圓を割いて、上海の辯護士に送つた。

その爲だつたか、或は當然さうなるべきだつたのか、兎に角、上海虎の罪は殺人罪としては最も輕い懲役刑を課せられ、その上に執行猶餘の恩典に浴したのだつた。

「之で借金のかたがついた」友雄は滿足さうにつぶやいた

それから暫くして友雄は上海に行く用事が出來た。彼は出來るなら上海虎に會ひたいと思つた。上海虎に會つて生命を救けてくれた禮も云ひ、且つ彼の爲に辯護士を依頼したのが誰であるか、知らせたくもあつた。彼は放免せられた時に、きつと夢のやうな氣持だつたらう、さうして彼の爲に辯護士を頼つてくれた者が、恰度鬪いた事のない人間だつたに驚いたに違ひない。彼だつて、その人に會ひたがつてゐるに違ひたい、さう思つたのだつた。

友雄はかつて依頼した辯護士の所に行つた「さあ」辯護士は首を傾けた。「今どこにゐますかなあ、兎に角、上海にゐるには違ひないですが、あゝ云ふ人間は定住所といふものがないので―、一體あなたはどういふ關係であの男を救つておやりになつたのですか。」「いえ、なに、別に之といふこともないのですが―」友雄は言葉を濁して辯護士の家を出た。

彼は上海虎を見つける手蔓を失つた。最早上海虎が出入しさうな所に立廻つて見つけるより仕方がない。果して何時見つかるか他に好い方法もないので彼は日の許す限り毎日毎日上海虎の出入しさうな所を訪ね廻つた。

三日目に幸運にも友雄は或る酒場の前で上海虎に會つた、あの夜、街燈の光りでチラリと見たゞけだつた、けれども友雄には忘れられない親しみのある顏だつた。

「やあ」友雄は帽子を取つて聲をかけた。

「あなたは私を覺えてゐますか」

「おゝ」相手は輕い驚きを示しながら「覺えてゐますよ。あなたはいつかの晩殺され損つた人ですね。もうあんな所へ出入してはいけませんぜ」

「あの時は誠に有難うございました。お蔭で生命拾ひいたしました。御恩は決して忘れては居りません。」「それはさうとあなたは輕く濟んで結構でした。あなたは誰があなたの辯護士を雇つたか御存じですか」

「な、なんのことですか、それは」相手は怪訝さうに友雄の顏を見ながら言つた。友雄は意外だつた

「あなたは上海虎さんでせう」

「ちよ、冗談ぢやない」相手は呆れ返つたやうに言つた「私は吉田と言ふ者です。上海日報の記者で、材料取りに時々あゝした所へ出かけるのですよ、上海虎と言ふのはあの時にあなたを拳銃で射たうとした獰猛な男です。」

友雄は眞蒼になつた。さうして何とはなしにガタガタと顫へた。

「えゝ、さうですよ、最近に彼は仲間を射ち殺しましてね今度こそ長いこと打ち込まれるだらうと思つたら、思ひがけなくも奴のために有名な辯護士をつけてやつた人がゐましてね、とても輕く濟んだんです。然しその後奴は復讐を恐れたのかそれとも改心でもしたのか、さつぱり姿を現はしませんがね……オヤ、どうかしましたか」

友雄の顏は土のやうだつた彼はもう夢中だつた。相手の言ふことも、よく耳に這入らなかつた。辛うじて乾いた唇をしめしながら言つた。

「いゝえ、な、なんでもありません、ど、どうも失禮しました。」

彼はさう言つて、呆れて彼の背後姿を見送つてゐる相手を殘してフラフラと醉つたやうた足どりで歩いて行つた。

それ以來、和田友雄は夜の冒險をぷつゝり止めるやうになつた。

秀吉の按摩奉公

小杉正彦

「むつ、こりや神々手に入つたものぢや。緩急壺を外さぬ揉み工合、思はず快う睡うなつて來たわ。一さうのことどうぢや、御身は弓矢を捨てて按摩になられては……」

ゴロリ横に肱枕して長々と寢そべつた、柴田勝家は、諸將綺羅星と居並ぶ滿座の中も憚らず、持ち前の嘲り調子で斯う云ふのでした。所は清州城の大廣間、時は本能寺の變天王寺の役の直後、織田家の世潮を會議する大事な席上の事です。

嘲られた主は誰あらう、天王寺の殊勳者羽柴筑前守秀吉先輩勝家の非道な命令にも言葉を返さず、素襖の廣袖を二の腕まで捲つて溫順しく勝家の足腰を揉んでゐるのでありました。鬼柴田は猶も圖に乘つて、「のう羽柴殿、貴公も今日でこそ、筑前守だの、秀吉だのと威張つてゐるが、十餘年の昔せば、實に可笑しいな。當時貴公は二合半の藤吉郎、剰へ綽が猿その儘、ヤレ藤吉郎草履を直せ、ソレ猿使ひに走れと、今此處に居る諸將方に追使はれれば、態と貴公キャツ〳〵と猿を眞似乍ら飛走られた。その頃勝家などは、穴明錢十枚御身に與へて、夜明し足腰の揉法をして貰つたものだつたな、その貴公も今は諸大名の一人猥りに足を擦れ、腰を揉めと言はれぬと思ふと、さて〳〵人の身の、榮枯の有樣程分らぬものはないて喃。」

そしてカラ〳〵と嘲罵の高笑ひ。天王山に先を越されて密かに秀吉に嫉妬を含む一座の諸將も、流石に勝家の傍若無人の態度には嫌厭を覺え、一座妙に白け渡つて言葉もなかつた。

折からしやしやり出たのは柴田が無二の親友、佐久間玄蕃であつた。先刻から勝家の罵罵に、密かに溜腔の快哉を叫んでゐた一人であつたが、何思つたかこの時、常イゝ秀吉の藝術を揶も皺く歪めて、前に膝行り寄つた。

「これ羽柴殿、いやさ筑前」「何事でござる」—仰ぎ見る秀吉の顏は、氷の樣に落着いてゐる。

「何事かとは何事ぢや、コレ貴公の此の有樣は一體何んぢや。苟くも故上樣より關西探題の重職を云ひつけられた程の御身が、人の足腰をかつ踞つて揉むなどとは言語道斷、取りも直さずこれは、主君より賜つた官職を辱しめるものぢや。恥辱に會へば一命捨てても之を雪ぐが武士の本懷、それに何ぢや、畜類にも等しいその謡ひ業、む、分つた、さ程までの恥辱も恥辱と思はぬ御身は、察する處心中に一大野心を抱いてゐるな、野心とは聞捨てならぬ。亡君のため主家のため、玄蕃キッと糺明しやう。これへ出い羽柴、こゝへ出い」非に理をつける玄蕃の一言、勝家と一つ穴の貉とは、言はでもそれと知れてゐる。

此の時迄默念としてゐた秀吉は、やをら揉む手を止めて靜かに玄蕃の顏を振り仰いだ

「喧しい佐久間玄蕃、今それしきの事で騷ぎ立てる時と思はれるか、天下の情勢を眼を開いて御覽なされい。今四方の强敵は何れも當家の隙を狙ひ、正に當家は風前の燈の有樣ではないか、斯樣な際に取るに足らぬ小事を以て、内に我々が爭ふ時は、折角の主君の偉業も水の泡となるではござらぬか、取り分けて拙者は微賤より起つた者、亡君より受けた鴻恩は各々と同日の比ではない。されば主家を思ふ心も人一倍にござれば、按摩位は愚かな事、假令履物を頭に戴せられ、嘲罵雜言の限りを盡されるとも、己れ一個の恨のために、主家の災を招く樣な振舞は斷じて致しませぬ。今勝家殿の腰を揉むも、主家を大事に己の恥辱などを省みねばこそ、取りも直さず亡君への按摩奉公でござる、はつは……。」

活然笑つて柴田、佐久間の顏に見入つた。居並ぶ諸將の中には、早くもこの一言を聞いて「天下はすでに羽柴の物だ」と呟く者さへあつた。

國威宣揚
產業報國

SPRINGS

最新の技術
最古の歴史

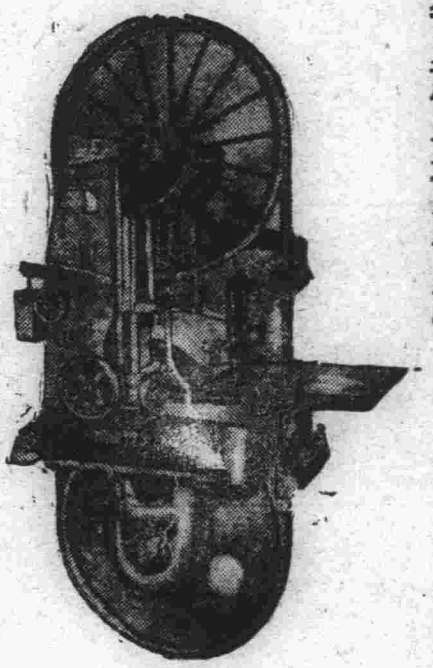
東洋スプリング製作所

本社　大阪市東淀川區中津南通三丁目
電話福島四六七七番
振替大阪三三八九八番
九州營業所　小倉市室町一丁目
電話七九七番

鈑金加工機械
プレス・シャー　專門製作

石原兄弟製作所

大阪市西成區出城通三丁目
電話戎（一九五六番／一九八五番）

東京營業所
東京市京橋區銀座西七丁目四
電話銀座五二一六番

各種製材機

（カタログ進呈）

合資會社　楠田竹治郎商店

大阪西局私書函第十三號
大阪市西區木田町通一丁目
電話西（長一七九五番／一二四五番）
振替大阪一〇五一三番

船具建築金物製造販賣

登録商標　澤

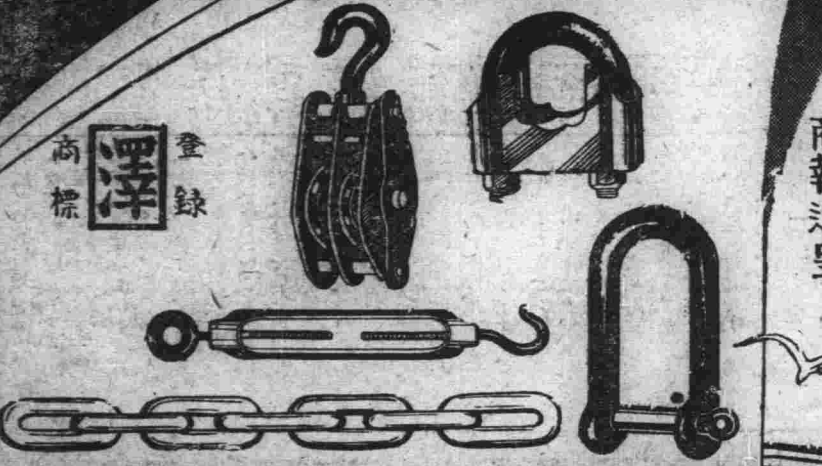
商報進呈

合資會社　澤井治太郎商店

大阪市西区松島町二丁目・電話西一六二〇・六八九〇番

國産の最高權威

戎印各種チヤック

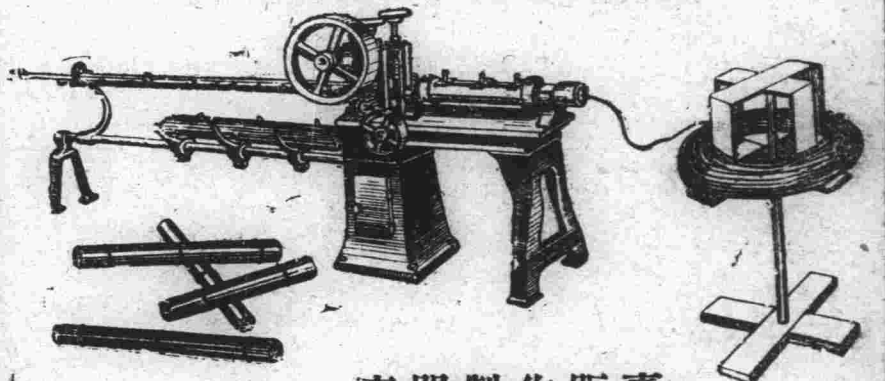
（カタログ進呈）

製作品目
スクロールチヤツク
インテペンテントチヤツク
コンビネーションチヤツク
ドリルチヤツク
ヘンドドリール

大阪市南區日本橋五丁目
木曾商店營業部
電話戎三五八四　振替大阪二四八九九
第一工場　大阪市港區辨天町
第二工場　大阪市南區日本橋五

斯界に定評ある
針金直線自動切斷機

專門製作販賣

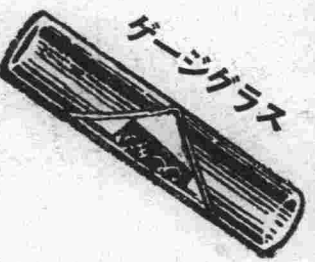
各種鐵線と寸法切斷

型録進呈

轟龜太郎商店

本店　大阪市天王寺區平野町一丁目
電話南（75）五六二九番
工場　大阪市南區上本町三丁目
支店　東京市本所區龜澤町三丁目一〇
電話本所（73）一五九一番

在庫豐富

草川ブラシ製作所

電話櫻川（64）六四七三番

強化安全硝子
耐熱耐壓用
特種加工硝子
內外板硝子
舶來厚板硝子
厚鏡舷窓用丸硝子
各種ゲージグラス
紡績人絹用
船舶車輪用
各種硝子
クリンガー式ゲージグラス
其他製作品一式
輸入並作製

商報進呈

直輸入　卸商
歐米各國厚硝子板
英國製ゲージ硝子

合名會社　濱田正硝子店

大阪市西區北堀江一番町（玉造橋南詰）
電話新町一九〇一番・四六二一番
振替大阪五八七八〇番　略電（ハ）又は（マハ）

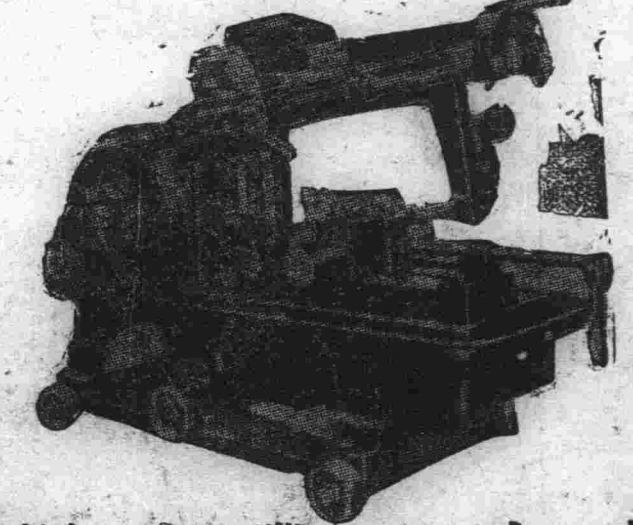
本年度も
三輪印（ゴムノリ／自轉車油）
御愛用下さい

登録商標

福岡油店

大阪市此花區上福島南一丁目
電話福島五八一番
振替口座大阪三五四九番

變速裝置
Vベルト減速
SF調速機

弊社の所信
一、常に感謝の念を以て專心生產に努力す
二、常に責任觀念の下に製作す納期の確實を期す
三、常に奉仕的觀念を以て良品を迅速廉價に提供するをモツトーとす

藤原工作所

大阪市此花區吉野町二ノ五六
電話土佐堀五二九四番

20バツクギヤード シエーパー

賀正

牧田千鐵工所

大阪市東區十二軒町二
電話東一七三一番

T.K.W高速度金切鋸機械

機械的浮動裝置附

（カタログ進呈）

坂本豐八本店

大阪市港區九條中通三丁目　電話西1070番